２０２３ジュニアニュース№.１

第1号　（一社）全日本ジュニア体操クラブ連盟
発行日：2023年1月13日(金)
発行所：東京都中央区日本橋１－１６－６　久富ビル4階
Ｔｅｌ：０３（３２８１）７７８８

新年あけましておめでとうございます。本年もどうぞ宜しくお願い致します。
「2023ジュニアニュース№.1」をお届けいたします。
指導者の皆様におかれましてはご確認よろしくお願い申し上げます。
今回の連絡事項は下記のとおりです。

1.（公財）日本体操協会「女子体操競技情報32号」について
2. 女子Ｂクラス変更事項について（ＨＰ

1.（公財）日本体操協会ホームページにおいて「女子体操競技情報３２号」が１月１０日付けにて公開されましたので、ジュニアニュースにて皆さまに情報をお送り致します。

(公財)日本体操協会HP：https://www.jpn-gym.or.jp/artistic/wp-content/uploads/sites/2/2023/01/ba2b1a245e99710300d100d686e7c19d.pdf

２ 女子Ｂクラス変更事項について既に２０２２年１２月に前号ジュニアニュース並びに当連盟ホームページに情報を掲載致しましたが、念のため再度ご連絡致します。

連盟ＨＰ：http://www.jr-gym.or.jp/news2022/2023-bwomens-info.pdf

※対象年齢や採点規則など変更されておりますので必ずご確認ください。

～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～

先日お送り致しましたジュニアニュースNO.4にてお知らせ致しました女子Bクラスの変更について詳細ができあがりましたのでご連絡致します。

【2023年度版全日本ジュニア体操競技東西/決勝大会・女子Bクラス採点規則】

《参加対象》　小学３年生から中学３年生まで
《採点規則》　（公財）日本体操協会女子採点規則２０２２年度版変更規則Ⅱを一部変更して適用する。
《一部変更規則》
⑴ 跳　馬　第２空中局面で１回以上のひねりを伴う前方宙返りまたは後方宙返りは無効とする。
⑵ ハナマル　基本技の正しい習得と美しい体操の実施に対してＤスコアに加点をする。

4.器械種目寸度（マットの高さ２０㎝で床面からの高さ）
⑴ 跳馬　１ｍ２５㎝
⑵ 段違い平行棒　低棒１ｍ７５㎝・高棒２ｍ５５㎝
棒間間隔最大１ｍ８１㎝
⑶ 平均台　１ｍ２５㎝

以上

2023年1月10日

女子体操競技情報32号

（公財）日　本　体　操　協　会
パリオリンピック強化委員会
女　子　体　操　競　技　強　化　本　部
審判委員会体操競技女子審判本部

日本体操協会では、パリオリンピック強化委員会体操競技女子強化本部による2023年強化指針と審判委員会体操競技女子審判本部による2023年採点指針をここに通達し、この通達をもって適用といたします。

2023 年　強化指針

パリオリンピック強化委員会
女子体操競技強化本部長
田中　　光

＜ナショナル 2024 パリ強化＞

2022 リバプール世界選手権では、団体予選 5 位、団体決勝 7 位、宮田笙子選手が個人総合で 8 位入賞、跳馬 5 位、平均台 3 位、ゆか 8 位、そして渡部葉月選手が平均台で優勝しました。

2023 年の強化指針として、基本に忠実で正確な技術からなる「美しい体操」を目指すとともに「跳馬の D スコア・E スコアアップ」、「段違い平行棒の支持回転系の技、け上がり～後ろ振り上げ倒立の技術の向上」、「平均台とゆかのダンス系の技の高さと姿勢の改善」、「ゆかのタンブリング技術の向上」、さらに芸術性の高い演技を目指した「コレオプログラムの充実」に取り組みたいと思います。

そして 2023 アントワープ世界選手権では、団体で入賞して 2024 パリ五輪団体権利獲得を目指します。また、団体、個人総合、種目別のいずれかにおいて、１つ以上のメダル獲得することを目標とし、一心精進の精神で強化に取り組みたいと思います。

以下の種目目標を達成するために、計画的かつ継続的に強化合宿を実施して強化に取り組みます。

＜跳馬＞

D スコア 5.00 以上の技は必須。積極的に D 5.20、D 5.40、D 5.80 の技に取り組みます。

高い D スコアの跳躍技を推奨しつつも、高い E スコアにつながる美しい姿勢と正確で雄大な跳躍を目指します。

＜段違い平行棒＞

高難度の手放し技の実施、組み合わせ点を多く得られる演技構成を推奨しつつも、美しい姿勢と正確で完成度の高い演技を目指します。支持回転系の技、け上がり～後ろ振り上げ倒立の技術の向上に力を入れます。

＜平均台＞

高い D スコアの演技を推奨しつつも、技の正確性と全習での安定感を最重要視し、美しい姿勢と正確で完成度の高い演技を目指します。ダンス系の技のジャンプの高さアップと姿勢の改善に取り組みます。

＜ゆか＞

高い D スコアの演技を推奨しつつも、美しい姿勢と正確で完成度の高い演技を目指します。ビッグタンブリングにつながるロンダート～後転とびの技術の獲得、ダンス系の技のジャンプの高さアップと姿勢、演技全体の表現力の改善に取り組みます。

＜ジュニアナショナル　2028 ロサンゼルス・2032 メルボルン強化＞

2022 年 11 月 27 日（日）にジュニアナショナル強化選手が決定しました。

2023 年のジュニア強化指針として、将来的に世界をリードする選手になるための「徹底した基本技術の習得」を一番の目標におきます。基本に忠実で正確な技術からなる「美しい体操」を目指すとともに、将来、世界で金メダルが取れる人材の輩出に焦点をおいた「跳馬の D スコア・E スコアアップ」、段違い平行棒の支持回転系の技、け上がり～後ろ振り上げ倒立の技術の向上」、「平均台とゆかのダンス系の技の高さと姿勢の改善」、「ゆかのタンブリング技術の向上」、「さらに芸術性の高い演技を目指した「コレオプログラムの充実」に取り組みたいと思います。

そして 2028 年ロサンゼルス五輪では、団体、個人総合、種目別のいずれかにおいて、１つ以上の金メダルを獲得することを目標とし、U-15 ジュニア強化改革に取り組みたいと思います。

以下の種目目標を達成するために、計画的かつ継続的に強化合宿を実施して強化に取り組みます。

＜跳馬＞

高い E スコアにつながる美しい姿勢と正確で雄大な跳躍を目指します。

＜段違い平行棒＞

美しい姿勢と正確で完成度の高い演技を目指します。支持回転系の技、け上がり～後ろ振り上げ倒立の技術の向上に力を入れます。

＜平均台＞

美しい姿勢と正確で完成度の高い演技を目指します。ダンス系の技のジャンプの高さアップと姿勢の改善に取り組みます。

＜ゆか＞

美しい姿勢と正確で完成度の高い演技を目指します。ビッグタンブリングにつながるロンダート～後転とびの技術の獲得、ダンス系の技のジャンプの高さアップと姿勢、演技全体の表現力の改善に取り組みます。

2023 年　採点指針

審判委員会体操競技女子審判本部

全体として

2022 年世界選手権リバプール大会において日本は、団体選手権で予選第 5 位、決勝第 7 位、個人総合選手権では宮田選手が 8 位入賞、種目別選手権においても平均台で渡部選手が金メダル、宮田選手が銅メダルを獲得するなど、世界の強豪国とも対等に戦い、評価を受けることができた大会でした。特に平均台では正確な技の実施と安定した演技で高い E スコアを獲得し、メダル獲得につながりました。この正確な技の実施と安定した演技は今の日本の強みでもあり、今後も追い求めていかなければなりません。4 種目すべてにおいて正確な技の実施と安定した演技ができれば、日本が目指しているオリンピック団体出場、そして団体戦でのメダル獲得につながるはずです。この目標を達成するために今日本が成し得なければならないことは、何よりも基礎基本の定着です。これはスコアではわかりづらい部分ですが、2022 年世界選手権での上位国の選手や高い D スコアを獲得している選手の演技を見れば明らかであり、ただ平均台の上に立つことや歩くこと、ジャンプの高さや開脚度、特に歴然としていたのは段違い平行棒のけ上がりから後ろ振り上げの技術や前振り後ろ振りの大きさなどで、明らかに基本的な技術の違いに差がありました。段違い平行棒に関してはこの差が D スコアの差と比例しているともいえます。この基礎基本の定着については、一朝一夕で成し得るものではなく日々の地道なトレーニングと中長期的な強化が必要となってきます。強化本部からもロサンゼルスオリンピック、メルボルンオリンピックに向けて「U-15 ジュニア強化改革」が打ち出されました。そのため今年の採点指針では、次世代を担うジュニア選手の中長期的な強化を目的としたジュニア層に特化させた指針と、それ以外のすべての年齢層の選手に向けた指針とを分けて提示いたします。基本的には昨年の指針で掲げている「美しい姿勢での演技」と「正確な技の実施」はそのまま踏襲し、国内すべての競技会において、欠点のない美しい姿勢での実施を高く評価し採点をしていきます。そしてジュニア層の選手が出場する競技会では、立つ、歩くなどの基本的な動作やけ上がり、後ろ振り上げ、難度の低いジャンプ、ターンなどの基礎的な技が欠点なくより美しい姿勢で実施できているかどうかに着目し採点をしていきます。

2023 年の国内競技会では以下の２項目を採点上の最重要項目とし採点をします。

① 膝、つま先の緩みがなく手先足先までコントロールされた美しい姿勢での演技
② 欠点のない正確な技の実施

各種目について

日本の現状を踏まえて望ましい演技として評価する方向性を以下のように示す。

◆ジュニア選手強化に向けた指針◆

対象競技会：全日本ジュニア選手権大会東西決勝大会　A クラス B クラス C クラス
全国中学校体育大会
全国ブロック選抜 U-12 体操競技選手権大会
全国体操小学生大会
その他、これらの大会に付随する予選会

※全日本ジュニア選手権大会選手権 1 部については、全日本選手権の予選となる大会のため、その他すべての国内競技会の分類とする

＜跳馬＞

- 助走から着手までのスピードと鋭い突き上がりのあるダイナミックな跳躍
- 第 1 空中局面、支持局面に欠点がなく正確な実施
- 着地の先取りができる跳躍

【採点上の留意点】

- ダイナミックさに欠ける跳躍については、第 10 章跳馬「種目特有な実施減点」の「高さが不十分」「距離が不十分」「ダイナミックさに欠ける」を有効に活用し、明確に差をつける。
- 第 1 空中局面、支持局面の欠点にも注視し、第 10 章跳馬「種目特有な実施減点」を有効に活用し減点をする。

＜段違い平行棒＞

- 腕の曲がりや膝、つま先の緩みのない美しく伸びた体線での正確な技の実施
- け上がり～後ろ振り上げや支持回転系の技において、姿勢欠点のない正確な技の実施
- 車輪系の技や支持回転系の技、終末技における振幅の大きい実施

【採点上の留意点】

- 上記の指針内容に沿わない姿勢欠点のある実施に対しては、第 8 章「一般欠点と減点表」、第 11 章段違い平行棒「種目特有な実施減点」の減点項目に則り、厳密に減点をする。
- け上がり～後ろ振り上げや支持回転系の技などの基本技の姿勢においては特に注視し、膝やつま先の緩みが見られる実施や、身体の姿勢が悪い実施に対しては、第 8 章「一般欠点と減点表」、第 11 章段違い平行棒「種目特有な実施減点」の「倒立、または振り上げ倒立の身体の姿勢が悪い」の減点項目に則り減点をし、明確に差をつける。
- 各技の振幅の小さい実施に対しては、第 8 章「一般欠点と減点表」の「技の高さ（大きさ）が不十分」の減点項目を有効に活用し減点をする。

＜平均台＞

- 重心が高く常に美しい立ち姿勢
- 立ち姿勢や歩く姿勢も含め、常に膝、つま先の緩みがない美しい演技
- アクロバット系、ダンス系の技の正確な実施
- 身体を最大限に使った動き

【採点上の留意点】

- 演技全体を通して身体の姿勢が悪い、膝、つま先が緩む、身体を最大限に使えていない演技に対しては、第 12 章平均台「芸術性と構成の減点」の「演技全体を通して芸術的表現に欠ける」の減点項目に則り、厳密に減点をする。
- ダンス系の技は特に注視し、姿勢欠点のある実施や正確さに欠ける実施に対しては、「身体の姿勢の減点（0.10/0.30/0.50）」、「技の高さが不十分（0.10/0.30）」、「正確さ（0.10）」の減点項目に則り、厳密に減点をする。
- アクロバット系の技において、姿勢欠点のある実施や正確さに欠ける実施に対しては、第 8 章「一般欠点と減点表」の減点項目に則り、厳密に減点をする。

＜ゆか＞

- 立ち姿勢や歩く姿勢も含め、常に手先足先までコントロールされた美しい姿勢での演技
- アクロバット系、ダンス系の技の高さのある正確な実施
- 身体を最大限に使った、表現力豊かで芸術的な演技

【採点上の留意点】

- 演技全体を通して身体の姿勢が悪い、つま先が伸びない、足が内向き、べた足での演技に対しては、第 13 章ゆか「芸術性と構成の減点」の「身体の姿勢が悪い」、「美しさに欠ける足の動き」の減点項目に則り、厳密に減点をする。
- ダンス系の技の姿勢欠点のある実施、高さが不十分な実施、正確さに欠ける実施に対しては、「身体の姿勢の減点（0.10/0.30/0.50）」、「技の高さが不十分（0.10/0.30）」、「正確さ（0.10）」の減点項目に則り、厳密に減点をする。
- アクロバット系の技の姿勢欠点のある実施、高さが不十分な実施に対しては、第 8 章「一般欠点と減点表」の減点項目に則り、厳密に減点をする。
- 演技全体を通して身体を最大限に使えていない、表現力に欠ける演技に対しては、第 13 章ゆか「芸術性と構成の減点」の「大きさ不十分」、「音楽のスタイルと一致した表現力の欠如」の減点項目に則り、厳密に減点をする。

◆その他すべての国内競技会に向けた指針◆

＜跳馬＞

- Dスコアの高い跳躍技の実施
- 跳躍全体にスピード感があり、高さと距離を伴うダイナミックな実施
- 着地の先取りができた高い姿勢での安定した着地

【採点上の留意点】

- 各局面において著しい技術不良が見られる跳躍については、各減点項目を有効に活用し厳密に減点をする。第1空中局面、支持局面の欠点にも注視し、第10章跳馬「種目特有な実施減点」を有効に活用し減点をする。
- ダイナミックさに欠ける跳躍については、跳躍の大きさだけでなく、技の難易度から受ける迫力や雄大性などを加味し、第10章跳馬「種目特有な実施減点」の「ダイナミックさに欠ける」の減点項目に則り、明確に差をつける。

＜段違い平行棒＞

- 腕の曲がりや膝、つま先の緩みのない美しく伸びた体線での正確な技の実施
- 車輪系の技や支持回転系の技、空中局面を伴う技の振幅が大きいダイナミックな実施
- 多様な空中局面を伴う技を組み入れ、組み合わせ点を獲得できる演技構成

【採点上の留意点】

- 上記の指針内容に沿わない姿勢欠点のある実施に対しては、第8章「一般欠点と減点表」、第11章段違い平行棒「種目特有な実施減点」の減点項目に則り、厳密に減点をする。
- け上がり～後ろ振り上げや支持回転系の技などの基本技の姿勢においては特に注視し、膝やつま先の緩みが見られる実施や、身体の姿勢が悪い実施に対しては、第8章「一般欠点と減点表」、第11章段違い平行棒「種目特有な実施減点」の「倒立、または振り上げ倒立の身体の姿勢が悪い」の減点項目に則り減点をし、明確に差をつける。
- 各技の振幅の小さい実施に対しては、第8章「一般欠点と減点表」の「技の高さ（大きさ）が不十分」の減点項目を有効に活用し減点をする。

＜平均台＞

- 立ち姿勢や歩く姿勢も含め、常に手先足先までコントロールされた美しい姿勢での演技
- アクロバット系、ダンス系の技が正確で安定した演技
- 身体を最大限に使った動きによる芸術的な演技
- 高いDスコアの獲得を目指した演技構成

【採点上の留意点】

- 演技全体を通して身体の姿勢が悪い、膝、つま先が緩む、身体を最大限に使えていない演技に対しては、第12章平均台「芸術性と構成の減点」の「演技全体を通して芸術的表現に欠ける」の減点項目に則り、厳密に減点をする。

－ ダンス系の技は特に注視し、姿勢欠点のある実施や正確さに欠ける実施に対しては、「身体の姿勢の減点(0.10/0.30/0.50)」、「技の高さが不十分(0.10/0.30)」、「正確さ(0.10)」の減点項目に則り、厳密に減点をする。
－ アクロバット系の技において、姿勢欠点のある実施や正確さに欠ける実施に対しては、第８章「一般欠点と減点表」の減点項目に則り、厳密に減点をする。

＜ゆか＞

－ 立ち姿勢や歩く姿勢も含め、常に手先足先までコントロールされた美しい姿勢での演技
－ アクロバット系、ダンス系の技の高さのある正確な実施
－ 身体を最大限に使った、表現力豊かで芸術的な演技
－ 高いＤスコアの獲得を目指した演技構成

【採点上の留意点】

－ 演技全体を通して身体の姿勢が悪い、つま先が伸びない、足が内向き、べた足での演技に対しては、第 13 章ゆか「芸術性と構成の減点」の「身体の姿勢が悪い」、「美しさに欠ける足の動き」の減点項目に則り、厳密に減点をする。
－ ダンス系の技は特に注視し、姿勢欠点のある実施、正確さに欠ける実施に対しては、「身体の姿勢の減点（0.10/0.30/0.50）」、「技の高さが不十分（0.10/0.30）」、「正確さ（0.10）」の減点項目に則り、厳密に減点をする。
－ アクロバット系の技において姿勢欠点のある実施、高さが不十分な実施に対しては、第８章「一般欠点と減点表」の減点項目を有効に活用し、減点をする。
－ 演技全体を通して身体を最大限に使えていない、表現力に欠ける演技に対しては、第 13 章ゆか「芸術性と構成の減点」の「大きさ不十分」、「音楽のスタイルと一致した表現力の欠如」、「身体の各部位が芸術的表現に十分関与していない」の減点項目に則り、厳密に減点をする。

【跳躍や演技を試みなかった場合の国内対応】

国内競技会においては、従来通り、グリーンライトの点灯またはＤ1 審判員からの演技開始の合図の後、選手がＤ審判員に挨拶をし、跳躍板や器具に触れてから再び挨拶することで 0.00 点として扱うこととする。（すべての種目）

【落下による中断時間中に止血が必要であると判断された場合の国内対応】

国内競技会においては、選手が器械から落下した際、演技続行の意志はあるが、止血が必要な状態であると医師または審判長が判断した場合、落下による中断時間（UB30 秒、BB10 秒）を超えて演技を中断しても減点なしで演技を再開することを認める。落下による中断時間（UB30 秒、BB10 秒）は、止血後から計時を始める。ただし、演技続行できないような怪我と医師が判断した場合は、この限りではない。（状態によっては演技続行不可と判断されることもある）

付録

【タイブレークの基準について】

＊この規則は、FIG 競技規則によるオリンピック、世界選手権等 FIG 主催の競技会に向けた規則です。国内の競技会においては、各競技会の主催団体によって、この規則を準用または参考にし設定をしてください。

競技規則　FIG Technical Regulations 2023（抜粋）

第２章　体操競技に関する特別規定

第７条　タイブレーク　ルール

第７条 7.1 予選

すべての決勝への資格取得：
同点の場合、どの順位においても、以下の通りの基準で順位を決定させる：

第７条 7.1.1 団体決勝のための予選

同点の場合、団体総合決勝の予選のどの順位においても資格取得にむけてのランキングは以下の基準で決定される：

１．最終得点のうち、男子は各種目のチーム得点の高い５種目の合計、女子はチーム得点の高い３種目の合計の得点が高いチームが上位となる（それでも同点の場合は、男子は得点の高い４種目、３種目、２種目、１種目の合計、女子は得点の高い２種目、１種目の合計の得点）

さらに同点の場合は、どちらのチームも同じ順位とする。
同点のチーム間で抽選を行い、団体決勝のスタート順を決定する。

第７条 7.1.2 個人総合決勝のための予選

同点の場合、個人総合決勝の予選のどの順位においても資格取得にむけてのランキングは以下の基準で決定される：

１．最終得点のうち、男子は得点の高い５種目の合計、女子は得点の高い３種目の合計の得点が高い選手が上位となる（それでも同点の場合は、男子は得点の高い４種目、３種目、２種目、１種目の合計、女子は得点の高い２種目、１種目の合計の得点）
２．さらに同点の場合は、すべての種目のEスコアの合計が高い選手が上位となる
３．さらに同点の場合は、すべての種目のDスコアの合計が高い選手が上位となる

さらに同点の場合は、どちらも同じ順位とする。
同点の選手間で抽選を行い、個人総合決勝のスタート順を決定する。

第７条 7.1.3 種目別決勝のための予選

同点の場合、どの種目、どの順位においても、**跳馬を除き**、種目別決勝のための資格取得にむけてのランキングは以下の基準で決定される：

１．Eスコアが高い選手が上位となる

２．Dスコアが高い選手が上位となる

さらに同点の場合は、どちらも同じ順位とする。

同点の選手間で抽選を行い、種目別決勝のスタート順を決定する。

跳馬の種目別決勝のための予選における得点が同順位であった場合、どの順位においても資格取得にむけてのランキングは以下の基準で決定される：

１．最終スコアを算出する前の２回の跳躍のスコアのうち、最も高いスコアをもつ選手が上位となる

２．２回の跳躍のうち、どちらか一方のEスコアが高い選手が上位となる

３．２回の跳躍のうち、どちらか一方のDスコアが高い選手が上位となる

さらに同点の場合は、どちらも同じ順位とする。

同点の選手間で抽選を行い、種目別決勝のスタート順を決定する。

第７条 7.2 決勝

第７条 7.2.1　団体決勝

同点の場合、団体総合決勝のどの順位においても、ランキングは以下の基準で決定される：

１．最終得点のうち、男子は各種目のチーム得点の高い５種目の合計、女子はチーム得点の高い３種目の合計の得点が高いチームが上位となる（それでも同点の場合は、男子は得点の高い４種目、３種目、２種目、１種目の合計、女子は得点の高い２種目、１種目の合計の得点）

さらに同点の場合は、どちらのチームも同じ順位とする。

第７条 7.2.2 個人総合決勝

同点の場合、個人総合決勝のどの順位においても、ランキングは以下の基準で決定される：

１．最終得点のうち、男子は得点の高い５種目の合計、女子は得点の高い３種目の合計の得点が高い選手が上位となる（それでも同点の場合は、男子は得点の高い４種目、３種目、２種目、１種目の合計、女子は得点の高い２種目、１種目の合計の得点）

２．さらに同点の場合は、すべての種目のEスコアの合計が高い選手が上位となる

３．さらに同点の場合は、すべての種目のDスコアの合計が高い選手が上位となる

さらに同点の場合は、どちらも同じ順位とする。

第７条 7.2.3 種目別決勝

最終得点が同順位であった場合、すべての種目のどの順位においても、**跳馬を除き**、ランキングは以下の基準で決定される：

１．Eスコアが高い選手が上位となる

２．Dスコアが高い選手が上位となる

さらに同点の場合は、どちらも同じ順位とする。

跳馬　種目別決勝

種目別決勝における最終得点が同順位であった場合、どの順位においてもランキングは以下の基準で決定される：

１．最終スコアを算出する前の２回の跳躍のスコアのうち、最も高いスコアをもつ選手が上位となる

２．２回の跳躍のうち、どちらか一方のEスコアが高い選手が上位となる

３．２回の跳躍のうち、どちらか一方のDスコアが高い選手が上位となる

さらに同点の場合は、どちらも同じ順位とする。

【マークについて】

採点規則2.3.2　競技の服装

f ）現行の FIG 広告規定に従い、自国のマークまたはエンブレムをレオタード／ユニタードにつけなければならない。

2022　FIG　広告規定および競技服装　（抜粋）

第５章　国のマーク

- すべての競技者は自国（国内では所属）を証明するマークを表示しなければならない。
  このマークは、以下のものでなければならない：
- 国旗または国名（組み合わせてはならない）
- フルネームもしくは国名を略したコードでもよい
  ＊国内では所属のマークまたは所属名（略称も可）
- 全体の面積は最低３０㎠とする
- マークの表示の場所は任意である。
- 自国のマークはそれぞれの選手に少なくとも１つは表示されなければならない。
- チームの場合、メンバー全員のマークは同じでなければならない。

【採点規則 2022 年版　補足説明】

＊2022 リバプール世界選手権・Newsletter#2・ヘルプデスク 15th サイクル（2022.9）情報

＜総則＞

- **演技のやり直しについて**

  2.1 選手の権利

  d）上級審判部の許可により（減点なしで）演技全体のやり直しができる：

  – 音響機器システムの故障等によって音楽が停止した場合、どの時点で音楽が停止したとしても選手には演技をやり直す権利がある。

- **コーチの行動に関するペナルティーについて**

  ＜警告＞

  – 競技エリア内での携帯端末等の不適切な使用
  – 他所属の選手の写真および動画の撮影

＜跳馬＞

- **助走について**

  助走路上でのいかなる助走も、１回の助走と数えられる。
  （助走路マットが敷かれていない床面を走っても助走とみなされる）
  ただし、挨拶の後、タッチウォームアップ前に跳馬とは逆側に走ることは除く。

＜段違い平行棒＞

- **空中局面を伴う技の承認について**

  2.202 の技は、もし、両腕を一緒に離さない場合、A 難度に下がり、構成要求#2 同一棒を握る空中局面を伴う技は認められない。

＜平均台＞

- **１つの技の中で複数の過失が発生した場合の最大の減点**

- バランス 0.10 + 触れる 0.30	= 0.40 P
- バランス 0.30 + 触れる 0.30	= 0.60 P
- バランス 0.50 + 触れる 0.30	= 0.80 P
- バランス 0.10 + つかむ 0.50	= 0.60 P
- バランス 0.30 + つかむ 0.50	= 0.80 P
- バランス 0.50 + つかむ 0.50	= 0.80 P
- 深いしゃがみ立ち 0.50 + バランス 0.10	= 0.60 P
- 深いしゃがみ立ち 0.50 + バランス 0.50	= 0.80 P
- 深いしゃがみ立ち 0.50 + ステップ（0.30 +0.10）	= 0.80 P

- **後転倒立 4.305 難度の承認要求**
  – 両脚を閉じて倒立に到達しなければならない。
  – 垂直より 10°以内の場合は C 難度を与え、10°を越えた場合は A 難度（後転 4.105）として承認する。（構成要求#2 は満たされる）

- **台の端へ、ひねりを伴うまたは伴わないアウエルバッハ宙返り下りの承認について**
  (#6.207, #6.307, #6.407, #6.507)
  – ひねりを伴うまたは伴わないアウエルバッハ宙返り下りは、台の端を通過し、足の一部が平均台の一直線上に沿って着地しなければならない。
  そうでなければ、台の横への終末技とみなされる。

- **横向きの動きに欠ける　-0.10**
  - A 地点から B 地点、そして C 地点へ移動しなければならない
    （A 地点→B 地点→A 地点では不十分）
  - 一歩足を踏み出して両足を揃えるだけでは不十分
  - 移動の間少なくとも腕の振り付けを伴うこと
    （移動後にポーズをしただけでは不十分）
  - 移動の間または移動終了時には、さらに（上半身、頭部、腕、脚が関与する）体の動きを含める必要がある。

    https://youtu.be/w0y_Cu5Wfhg

- **5.411 側方かかえ込み宙返り**
  - 片脚が伸びた場合も側方かかえ込み宙返りとして承認し、**不正確なかかえ込み姿勢（-0.30）**の減点をする。

    https://youtu.be/lbWxyh1IpkQ

- **5.512 伸身宙返りにおける伸身姿勢の承認のためのガイドライン**
  - E 難度の承認
    伸身姿勢は、垂直からおおよそ **30 度まで**保たれなければならない。
    （垂直を越えた後も**肩は回転し続けなければならない**）

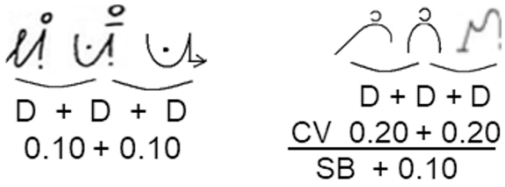
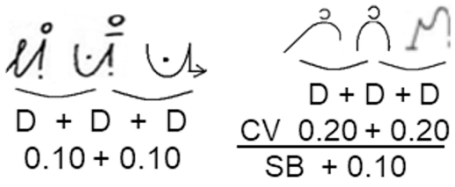
    https://youtu.be/wtNIY_T75UE

    https://youtu.be/JPz347QCBXI

＜ダンス系の技＞

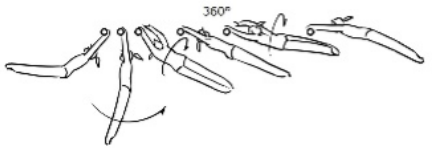
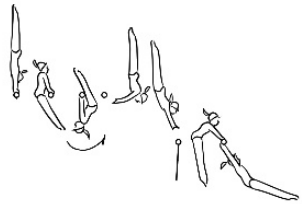
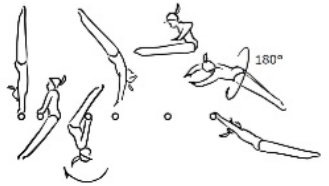
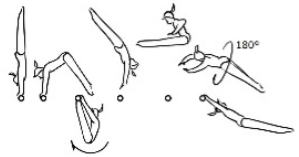
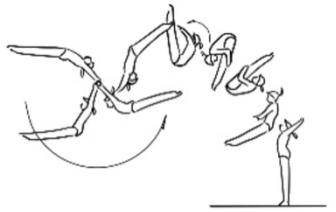
- 片足上のターン
  ダンス系の技のひねりの過不足は、「正確さ（-0.10）」の減点を適用する。もし、片足上のターンで規定されたひねりの角度を越えて技を完了させた（ひねり過ぎた）場合、技の完了後バランスを崩さずにそのまま振り付け（動き）につなげれば「正確さ」の減点はない。

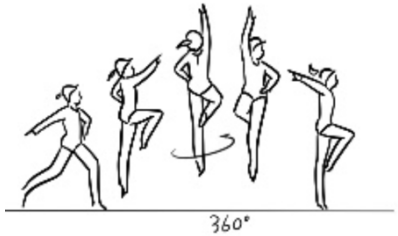
【採点規則 2022 年版】修正　＊2022-2024 Code of point Mark up　(2022 May)

頁	追加修正	章・節	変更前	変更後
2	追加	第 2 章 練習	予選、個人総合決勝、団体決勝	予選、個人総合決勝、団体決勝、**種目別決勝**
14	修正	**評価：** **Dスコア** 難度点(A+C+A+×+×+E)　＋ 1.00 構成要求　#2、#3　＋ 1.00 **D スコア　＋ 2.00** 実施と芸術性のための**最大 Eスコア**　10.00 **減点合計**(2回の転倒、高さ、大きさ等)　－ 4.10 **E スコア　＝ 5.90** **合計スコア　＝ 7.90** 短い演技に対するニュートラルディダクションが適用された後の**最終スコア** **7.90－6.00(短い演技の減点)＝ 1.90**	**評価：** **Dスコア** 難度点(A+C+A+×+×+E)　＋ 1.00 構成要求#2、#3　＋ 1.00 終末技ボーナス　＋ 0.20 **D スコア　＋ 2.20** 実施と芸術性のための**最大 E スコア　10.00** **減点合計**(2 回の転倒、高さ、大きさ等)　－ 4.10 **E スコア　＝ 5.90** **合計スコア　＝ 8.10** 短い演技に対するニュートラルディダクションが適用された後の**最終スコア** **8.10－6.00(短い演技の減点)＝ 2.10**
18 ↓ 17	移動	**7.4.2 組み合わせ点** c ）　3つ以上の技が直接組み合わされている場合、2番目の技は、 – 1回目は組み合わせの最後の技として、 – 2回目は新しい組み合わせの最初の技として、使用することができる。 例)  	**7.4 組み合わせ点(CV)とボーナス** f ）　3つ以上の技が直接組み合わされている場合、2番目の技は、 – 1回目は組み合わせの最後の技として、 – 2回目は新しい組み合わせの最初の技として、使用することができる。 例)  *※内容に変更なし*
18	修正	d ）　3つ以上の技が直接組み合わされている場合、段違い平行棒の空中局面を伴う技、または平均台やゆかの宙返りの同一技は直接組み合わされていなければならない。その条件をもって、すべての組み合わせで組み合わせ点が獲得できる。	c ）　3つ以上の技が直接組み合わされている場合、段違い平行棒の空中局面を伴う技、または平均台やゆかの宙返りの同一技は直接組み合わされていなければならない。その条件をもって、すべての組み合わせで組み合わせ点が獲得できる。 *※内容に変更なし*

21	追加	**8.3　一般欠点と減点表**	– 足から先に着地しない、または技の規定された姿勢での着地がとれない DV、CV、CR、SB(BB)なし	– 足から先に着地しない、または技の規定された姿勢での着地がとれない DV、CV、CR、SB(BB)、終末技ボーナスなし
21	追加	**8.3　一般欠点と減点表**	– 補助行為(演技を助ける) 1.00　最終スコアから ・コーチが技の完了後に助けた場合はCVなし	– 補助行為(演技を助ける) 1.00　最終スコアから ・コーチが技の完了後に助けた場合はCV、終末技ボーナスなし
25	追加	**9.3 抜粋されたダンス系の技の要求**	輪とび（ジャンプ）	輪とび（ジャンプ） D審判団 ・後ろの足が頭頂部より低い – 両足踏み切り、前後開脚とびまたはシソンヌ
32	追加	**11.1 一般規則** **a)　開始技**	– もし選手が跳躍板や器械に触れたり、器械の下をくぐり抜けたりしなかった場合、2回目の開始技の試みが認められる。(減点を伴う) • 1.00の減点	– もし選手が跳躍板や器械に触れたり、器械の下をくぐり抜けたりしなかった場合、2回目の開始技の試みが認められる。(減点を伴う) • 1.00の減点（D審判団）
35	追加	**12.1 一般規則** **a)　開始技**	– もし選手が跳躍板や器械に触れなかった場合、2回目の開始技の試みが認められる。(減点を伴う) • 1.00の減点	–もし選手が跳躍板や器械に触れなかった場合、2回目の開始技の試みが認められる。(減点を伴う) • 1.00の減点（D審判団）
36	追加	**12.3 構成要求(CR)**	* 次の技は構成要求2を満たすことができる。 1.303, 1.403, 1.304, 1.207, 1.308, 1.514, 4.203, 4.204, 4.304, 4.305, 4.206, 4.306, 4.307, 5.405, 5.505	* 次の技は構成要求2を満たすことができる。 1.303, 1.403, 1.304, 1.207, 1.308, 1.514, 4.203, 4.204, 4.304, 4.105, 4.305, 4.206, 4.306, 4.307, 5.405, 5.505
37	修正	**12.4 組み合わせ点(CV)とシリーズボーナス(SB)**	**注：**ターンは、踏み出して逆の脚で実施してもよい。(片脚または両脚のわずかに膝を曲げた準備動作は認められない)	**注：**ターンは、踏み出して逆の脚で実施しなければならない。(片脚または両脚のわずかに膝を曲げた準備動作は認められない)
42	修正	**13.4 組み合わせ点(CV)**	**片足上でのターンの組み合わせ** **注：**ターンは踏み出して逆の脚で実施してもよい。(わずかに膝を曲げた準備動作は認められない)	**片足上でのターンの組み合わせ** **注：**ターンは踏み出して逆の脚で実施しなければならない。(わずかに膝を曲げた準備動作は認められない)
付録	削除	**変更規則Ⅰ、Ⅱ共通** **A(0.10)の難度を認められる要素**	**-平均台** 後転を削除 *※難度表 4.105に追加されたため*	
付録	修正	**変更規則Ⅱ＜構成要求＞** **段違い平行棒**	2.　後ろ振り上げ倒立（閉脚）	2.　後ろ振り上げ閉脚伸身倒立 (ひねりを伴う技を除く)

【2022 年新技】

種目	選手	解説	URL	シンボル	難度	図
UB	**Montell Malla** （FIN）	**#2.203** 高棒懸垂～後ろ振り1回ひねり～高棒懸垂 https://youtu.be/nneGqoQtJE8			**B**	
	Pedrick Danielle （CAN）	**# 2.306** 高棒内向き、後方浮支持回転前とび出し～下移動低棒浮支持 https://youtu.be/qRK0wyr3ilA			**C**	
	Ellie Black （CAN）	**# 2.706** （高棒）後方浮支持回転～屈身背面とび越し1/2ひねり～片大逆手高棒懸垂 https://youtu.be/4cbjuFKb60g			**G**	
	Georgia - Mae Fenton （GBR）	**# 5.610** （高棒）後方屈身足裏支持回転～屈身背面とび越し1/2ひねり～片大逆手高棒懸垂 https://youtu.be/T0Zj4_J0EXU			**F**	
	Stewart Ava （CAN）	**# 6.508** 後ろ振り～前方屈身2回宙返り下り https://youtu.be/TsNRbkyqbgA			**E**	

FX	**MOERZ Alissa & Charlize** （AUT）	**# 1.110** **片足踏み切り、浮脚を曲げて（パッセ）伸身とび１回ひねり** *＊伸身とび１回ひねりと同一技* https://youtu.be/h9N29ID6nrA			**A**	

差し替えページ

第 2 章　選手の規則

2.1 選手の権利

2.1.1 一般規則

選手には以下の権利が保証される：

a) 演技は採点規則の規約に従い、正確で公平に採点される。
b) 提出された新しい跳躍技や技についての難度評価は、競技開始前に書面で受け取ることができる。
c) スコアは演技後直ちに、またはその競技会で定められた規則に従い、公表される。
d) 上級審判部の許可により(減点なしで)演技全体のやり直しができる：
- もし、演技の中断が選手に原因がない場合。
- もし、ハンドガード(プロテクター)が著しく破損し、落下や演技の中断を引き起こした場合。選手は、演技のやり直しの許可を受けるために演技台を離れる前、速やかに壊れたハンドガード(プロテクター)をD1審判員に見せなければならない。

注：演技のやり直しをする選手は、そのローテーションの最後に実施する。また、選手がそのローテーションの最後の演技者だった場合は、上級審判部の判断によって実施される。

e) 選手が個人的な理由によって競技エリアを一時的に離れる。

注：競技が選手の不在によって遅れることのないようにする。

f) 競技会でのすべてのスコアは、団長を通して正確な競技結果として受け取ることができる。

2.1.2 器械器具

選手には以下の権利が保証される：

a) 練習会場、サブ会場、競技会場は、FIG公式競技会の標準規格である同一の器械器具とマットが用意される。
b) 10cmの着地用追加マットの上に跳躍板を置くことができる。（段違い平行棒、平均台）
c) 段違い平行棒のためと平均台上に小さな印を付けるためにマグネシウムの使用は認められる。
d) 段違い平行棒では1名の補助者を置くことができる。
e) 器械から落下した場合、段違い平行棒では30秒まで、平均台では10秒までの中断と身体的回復のための時間が許される。(減点なしで)
f) 器械からの落下後や跳馬での1回目と2回目の演技の間にコーチと相談することは認められる。
g) もし選手の足がマットに触れてしまう場合、両棒を上げる申請ができる。

練習

予選、個人総合決勝、団体決勝、種目別決勝

- その大会の競技規則に従い、各出場選手(怪我をした選手の代理も含めて)にすべての種目において、競技直前の演技台上での練習が与えられる。
  - **跳馬**(団体および個人グループ)
    個人総合決勝、団体決勝、種目別決勝　－2 回の練習のみ
    種目別決勝のための予選　－最大 3 回の練習
  - **平均台、ゆか**
    各 30 秒
  - **段違い平行棒**
    各 50 秒 ， 棒の調節を含む

注：

- 予選と団体決勝では**跳馬を除き**練習時間の合計がチームに与えられる。チームは最後の選手が練習できるように経過時間に注意しなければならない。
- 個人グループの練習時間は選手個人に与えられる。練習の順番は演技順であることが望ましい。

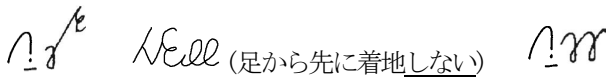
- 練習時間の終了は、ゴングによって合図される。もしこの時点で、選手が器械の上にいた場合、選手はやりかけた技や一連の運動を最後まで行うことができる。練習時間の後や「演技の間」では、器械器具の準備(段違い平行棒では最大2名が上がれる)はできるが使用することはできない。

- D1 審判員からの演技開始の合図(FIG 公式競技会ではグリーンライト)から 30 秒以内に演技を開始しなければならない。

差し替えページ

例：ゆか

選手が 4 つの技のみを実施した後、転倒し怪我をした場合



評価：

Dスコア

難度点(A+C+A+×+×+E)	＋ 1.00
構成要求　#2、#3	＋ 1.00
終末技ボーナス	＋ 0.20
D スコア	**＋ 2.20**

実施と芸術性のための**最大 Eスコア**	10.00
減点合計(2回の転倒、高さ、大きさ等)	－ 4.10
E スコア	**＝ 5.90**

合計スコア　＝ 8.10

短い演技に対するニュートラルディダクションが適用された後の**最終スコア**

8.10－6.00(短い演技の減点)＝ 2.10

差し替えページ

新技／跳躍技が、選手名をとって名付けられるためには、以下の通りでなければならない：

- FIG 公式競技会グループ 1、2 または 3（FIG 公認の競技部長の参加があってもなくても）の競技会において、国際的に初めての実施であること。
- C 難度またはそれ以上の難度価値のある実施であること。
- 難度価値と名前は、技術委員会が実施の分析をした時のみ承認される。
- もし、同じ競技会で同じ新技を 2 名以上の選手が実施した場合、その新技にはすべての選手の名をとって名付けられる。
- 選手の連盟には、その競技会終了後できるだけ早く申請された新技のビデオを FIG 技術委員長に提出する義務がある。さらに、その競技会の競技部長は、公式のビデオと（可能であれば）コーチから提出されたビデオの原物と技術の図、その競技会で与えた暫定的な評価についてのすべての詳細をできるだけ早く FIG 技術委員長へ提出しなければならない。

7.3 構成要求（CR） 2.00

構成要求は各種目の条項に記載されている。
最大で 2.00 を獲得することができる。

a) 難度表にある技のみ構成要求を満たすことができる。
b) 1 つの技で複数の構成要求を満たすことができる；
しかし異なる構成要求を満たすために同一技を繰り返すことはできない。

7.4 組み合わせ点（CV）とボーナス

組み合わせ点は、段違い平行棒、平均台、ゆかの演技において、独創的な技の組み合わせを成功させたときに与えられる。

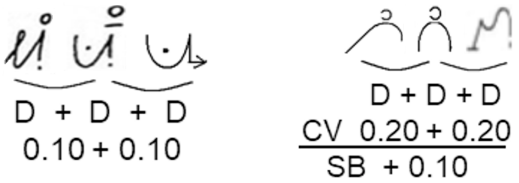
a) 組み合わせ点に使う技は難度点で数えられた 8 つの技である必要はない。
すべての技は難度表にあるものでなければならない。
b) 段違い平行棒、平均台、ゆかでの組み合わせ点の評価は：
+0.10
+0.20

c) 組み合わせ点とボーナスの公式は各種目に記載されている。
PART 3：第11章、第12章、第13章

d) 難度価値が下がった技も組み合わせ点とボーナスに使用できる。
e) 組み合わせ点とボーナスを承認するためには、技は落下なしに、またはそれぞれの種目に記載されている特別な規則に従って実施されなければならない。

f) 3つ以上の技が直接組み合わされている場合、2番目の技は、
1回目は組み合わせの最後の技として、
2回目は新しい組み合わせの最初の技として、使用することができる。

例：



7.4.1 直接と間接の組み合わせ

すべての組み合わせは**直接**でなければならない；
ゆかのアクロバット系の技の組み合わせに限り**間接**でもよい。

直接の組み合わせとは以下のような実施なしに行われたものをいう：

a) 技と技の間に止まり
b) 技と技の間に余分なステップ
c) 技と技の間で足が台に触れる
d) 技と技の間でバランスを失う
e) 2つ目の技の踏み切りの前に1つ目の技で明らかに脚／腰が伸張する
f) 余分な、または過度な腕の振り

間接の組み合わせ（ゆかのアクロバット系シリーズのみ）とは、宙返りと宙返りの間に、空中局面を伴う支持のある技（グループ3の例えばロンダート、後転とび等の準備的な技）が入る組み合わせをいう。

直接あるいは間接（ゆか）の組み合わせの**判断**は、選手に有利となるようにすべきである。

平均台、ゆか、段違い平行棒（組み合わせ点のための特別な条件のあるものを除く）での

差し替えページ

1つの組み合わせの中における技の連続の順番は自由でよい。

7.4.2 組み合わせ点(平均台のシリーズボーナス)のための技の繰り返し

a) 同一技は組み合わせ点のために他の組み合わせで繰り返せない。
承認は実施された順に行う。

b) 段違い平行棒や平均台とゆかでのアクロバット系の技は、1つの組み合わせの中で2回まで同一技を使用することができる。ダンス系の技は繰り返すことができない。

例:

段違い平行棒 ― トカチェフを2回
シュタルダー1回ひねりを2回

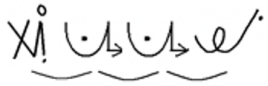
平均台 ― 後転とび1回ひねりを2回

ゆか ― 間接または直接の組み合わせで、テンポ宙返りを2回から後方屈身2回宙返りへ

c) 3つ以上の技が直接組み合わされている場合、段違い平行棒の空中局面を伴う技、または平均台やゆかの宙返りの同一技は直接組み合わされていなければならない。その条件をもって、すべての組み合わせで組み合わせ点が獲得できる。

例:

段違い平行棒



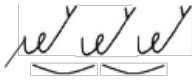
D + D + **X** + D
0.10 + 0.20 + 0.10

合計 CV +0.40

空中局面を伴う技 は、

- 1回目は組み合わせの2つ目の技として、
- 2回目は2つの同一の空中局面を伴う技の組み合わせとして、
- 3回目は新しい組み合わせの1つ目の技として、使用することができる。

平均台



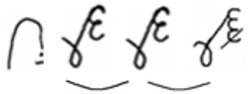
C + C + **X**
CV 0.10 + 0.10
SB + 0.10

合計 CV +0.20 SB+0.10

宙返り は、

- 1回目は組み合わせの2つ目の技として、
- 2回目は新しい組み合わせの1つ目の技として、
- 3回目は2つの同一の宙返りの組み合わせとして、使用することができる。

ゆか



C + **X** + C
0.10 + 0.10

合計 CV +0.20

宙返り は、

- 1回目は2つの同一の宙返りの組み合わせとして、
- 2回目は新しい組み合わせの1つ目の技として、使用することができる。

7.4.3 終末技ボーナス

段違い平行棒、平均台、ゆかにおいて、D難度またはそれ以上の終末技に対して**0.20**のボーナスが与えられる。

ボーナスを承認するためには、終末技は転倒することなく実施されなければならない。

ゆか:ボーナスを承認するためには、最後のアクロラインは転倒することなく実施されなければならない。

差し替えページ

8.3　一般欠点と減点表

欠　点		小	中	大	超大
		0.10	0.30	0.50	1.00 以上
D 審判団(D1 – D2)による減点					
– 組み合わせの実施での落下(転倒) – 終末技での転倒	UB、BB、FX				CV、SB(BB)なし ボーナスなし
– 足から先に着地しない、または技の規定された姿勢での着地がとれない	各				DV、CV、CR、SB(BB)、終末技ボーナスなし
– 演技面の外からの踏み切り(完全に外から)	FX				DV、CV、CR なし
– 演技の前後に D 審判員に挨拶をしない	選手/当該種目		X		最終スコアから
– 補助行為(演技を助ける)	UB、BB、FX 各				1.00　最終スコアから ・コーチが技の完了後に助けた場合は CV、終末技ボーナスなし ・コーチが技の実施を助けた場合は DV、CV、CR、終末技ボーナスなし
– 許可されていない補助者	選手/当該種目			X	最終スコアから
上級審判部へ報告し、D 審判団(D1 – D2)または上級審判部による減点					
器械器具での不正行為：					
– ロンダート入りの跳躍技でのセーフティーカラーの使用違反(10.4.3 参照)	選手/当該種目				無効となる跳躍 “0.00”
– 追加の着地用マットを使用しない	選手/当該種目			X	最終スコアから
– 許可されていない器具の上に跳躍板を置く	選手/当該種目			X	
– 許可のない追加マットの使用	選手/当該種目			X	
– 演技中に追加マットを動かす、または許可のない平均台の端へ動かす	選手/当該種目			X	
D 審判団からの報告を受け、審判長による減点					
– 不適切なマグネシウムの使用、または器械を損傷させる	選手/当該種目			X	最終スコアから
– 跳躍板のスプリングを追加したり、配列を変えたり、取り外す	選手/当該種目			X	
– 許可なく器械の高さを変える	選手/当該種目			X	
D 審判団からの報告を受け、審判長による減点					
選手の行動					
– 不適切あるいは美的でないパットの使用	選手/当該種目		X		最終スコアから
– 自国のマークが付いていない、または付ける位置の違反	選手/当該種目		X		予選、個人決勝、団体決勝ではその競技の発覚した最初の種目から 1 回 種目別決勝は当該種目から
– ゼッケンが付いていない	選手/当該種目		X		
– 不適切な服装　－レオタード、装飾類、包帯の色など	選手/当該種目		X		
– 広告違反	チーム 選手/当該種目		X		当該組織から要請された場合、 最終スコアから
– スポーツマンらしくない行動	選手/当該種目		X		最終スコアから
– 不当に演技台にとどまる	選手/当該種目		X		最終スコアから
– 演技終了後再び演技台に上がる	選手/当該種目		X		最終スコアから
– 競技中に任務中の審判員と話す	選手/当該種目		X		最終スコアから
– チーム選手の誤った演技順での競技	チーム				1.00　予選、団体決勝 当該種目のチーム得点から
– レオタードが同一でない (同じチームの選手)	チーム				1.00　予選、団体決勝 その競技の発覚した最初の種目から 1 回

差し替えページ

9.3 抜粋されたダンス系の技の要求

正面水平立ち(4.102)

承認要求：
- 開脚は 180 度

D 審判団
- ＜180 度　　－ 難度なし

脚の位置の特別な要求のあるターン

承認要求：
- 前または後ろの浮脚はターンのはじめから終わりまで水平

D 審判団
- 浮脚が水平より低い　　－ 難度表にある異なる技

ひねりを伴う／伴わないかかえ込みとび

承認要求：
- 腰角度 － 90 度未満
- 膝は水平より上

D 審判団
- 腰／膝角度 ＞135 度　　－ 難度なし、または異なる技

E 審判団
- 膝が水平　　－小欠点
- 膝が水平より低い　　－中欠点

ひねりを伴う／伴わないウルフとび

承認要求：
- 腰角度 － 90 度未満
- 伸ばした脚は水平より上

D 審判団
- 腰角度 ＞135 度　　－ 難度なし、または異なる技

E 審判団
- 伸びた脚が水平　　－小欠点
- 伸びた脚が水平より低い　　－中欠点

ひねりを伴う／伴わないねこことび

承認要求：
- 脚は交互に上がる
- 膝は水平より上
- 最も低い膝の位置で承認をする

D 審判団
- 腰／膝角度 ＞135 度　　－ 難度なし、または異なる技
- 脚が交互に上がらない　　－ かかえ込みとび

E 審判団
- 片脚／両脚が水平　　－小欠点
- 片脚／両脚が水平より低い　　－中欠点

ひねりを伴う／伴わない開脚屈身とび

承認要求：
- 両脚は水平より上でなければならない

D 審判団
- 腰角度 ＞135 度　　－ 難度なし、または異なる技

E 審判団
- 脚の位置が不正確(高さが不揃い)　　－小欠点
- 脚が水平　　－小欠点
- 脚が水平より低い　　－中欠点

輪とび(ジャンプ)

承認要求：
- 上体はアーチ姿勢、頭部は後屈
- 斜めに前後開脚180度
- 後ろの足は頭頂部へ

D 審判団
- アーチ姿勢と頭部後屈がない
  － 両足踏み切り、前後開脚とびまたはシソンヌ
- 後ろの足が頭頂部より低い
  － 両足踏み切り、前後開脚とびまたはシソンヌ
- 開脚が見られない　　－ 難度なし

E 審判団
- アーチ姿勢が不十分　　－小欠点
- 後ろの足が頭の高さ　　－小欠点
- 後ろの足が肩の高さ　　－中欠点

差し替えページ

第 11 章　段違い平行棒

11.1 一般規則

演技の採点は跳躍板またはマットを踏み切った時から始まる。跳躍板の下に補助器具(例：余分な板)を追加することは**認められない**。

a) 開始技

- もし選手が 1 回目の試みで跳躍板や器械に触れたり、器械の下をくぐり抜けたりした場合:
  - 1.00 の減点（E 審判団）
  - 選手は演技を開始しなければならない
  - 開始技の難度はなし
- もし選手が跳躍板や器械に触れたり、器械の下をくぐり抜けたり**しなかった場合**、2 回目の開始技の試みが認められる。(減点を伴う)
  - 1.00 の減点（D 審判団）
- 3 回目の試みは認められない。

選手は、低棒の下を歩いて、または走って開始技を実施してはならない。（2.4 参照）

D 審判団は最終スコアからこの減点をする。

b) 落下による中断時間

器械からの落下による演技の中断は30秒まで許される。
もし、選手が演技再開までの許容時間を超えた場合、それでも選手が演技を続けるならば、中断時間超過の減点－0.30 が適用される。

- 計時は選手が落下後マットに立った時から始まる。
- 落下の間、経過時間は秒単位でスコアーボードに表示される。
- 合図(ゴング)によって以下の経過時間を知らせる：
  - 10 秒
  - 20 秒
  - 30 秒の制限時間
- 公式に演技が再開されるのは、マットから足が離れた時からである。
- もし、選手が 60 秒以内に演技を再開しなければ、演技終了とみなされる。

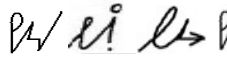
落下後、手をあげて挨拶することは演技再開には必要ではない。

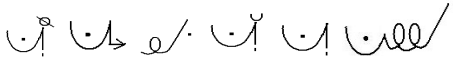
11.2 演技の内容と構成

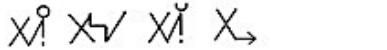
終末技を含む最大8つの高い順からの技が難度点として数えられる。

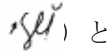
- 終末技なし　　最終スコアから －0.50　(D審判団)
- 同じ*ルートスキル(同じ系統の技術)をもつ技は、難度点(DV)構成要求(CR)組み合わせ点(CV)のために、実施された順に **3 つの**技のみ数えられる。
  - け上がり、前方／後方車輪、振り上げ倒立は除く

*ルートスキルは、回転の方向(前方／後方)と技への入り方によって決定される

例１： 
B　D　E　×（難度なし）

例２： 
D　D　D　B　B　D

例３： 
D　B　C　×（難度なし）

- 開始技（例：）と終末技（例：  ）は、ルートスキルの技として数えられる。
- 技術的な要求を満たさずに難度なしとなった技は、ルートスキルの技として数えられない。

ひねりを伴わない“トカチェフ”系の技は、難度表の同じ並びの技の中から 1 つのみ承認される。

価値部分は以下の運動の分類から多様性に富むように選択すべきである：

a) 回転系と振動系の技

- 後方車輪
- 前方車輪
- 振り出しと浮支持回転
- 前方／後方開脚浮腰回転
- 前方／後方足裏支持回転

差し替えページ

第 12 章　平均台

芸術性

演技の構成

平均台の演技構成は、動きのリズムや強さ、テンポの変化がはっきりと確立され、平均台に関連している要素の振り付けと選手の動きの表現技法に基づいている。それは、連続した流れ、まとまりのある全体像を作り出すために
- ダンス系の技
- アクロバット系の技
- 振り付け

のバランスをとることである。

理想とする演技構成は以下を含む：
- 難度表の異なるグループから様々な技を豊富に選択する
- 高さの変化(高く、低く)
- 方向の変化(前へ、後へ、横へ)
- リズムとテンポの変化
- 創造的で独創的な動きと流れの変化

これは選手が**「何を」**演技するかを示している。

リズムとテンポ

リズムとテンポ(スピード／歩調)は変化に富み、時には軽快に、時にはゆっくり、しかし何よりも途切れなくダイナミックでなければならない。
動きと技の間のつなぎは滑らかに途切れなく流れていなければならない：
- 不必要な止まりなく、または、
- 技の前の長い準備動作なしに

演技は途切れた技をつなげただけのものであってはならない。

芸術的な演技

選手が創造性、演技への自信、個性的なスタイル、欠点のない技術、変化に富んだリズムとテンポを明確に示せたとき、理想的な構成を芸術的な演技に変えることができる。

それは選手が**「何を」**演技するかではなく**「どのように」**演技するかを示している。

12.1 一般規則

演技の採点は跳躍板またはマットを踏み切った時から始まる。跳躍板の下に補助器具(例：余分な板)を追加することは**認められない**。

a)　開始技
- もし選手が 1 回目の試みで跳躍板や器械に触れた場合:
  - 1.00 の減点(E 審判団)
  - 選手は演技を開始しなければならない
  - 開始技の難度はなし
  - 「難度価値のない開始技」の減点を適用(E 審判団)

- もし選手が跳躍板や器械に触れなかった場合、2 回目の開始技の試みが認められる。(減点を伴う)
  - 1.00 の減点（D 審判団）
- 3 回目の試みは認められない。

D審判団は最終スコアからこの減点をする。

b)　計時

平均台上での演技時間は1分30秒(90秒)を超えてはならない。

- 計時審判員 1 は選手が跳躍板またはマットを踏み切った時に計時を開始する。そして選手が平均台の演技を終えマットに触れた時に計時を終了する。

- 制限時間の 10 秒前と、そして再度、演技を終了しなければならない制

差し替えページ

限時間(1 分 30 秒)を合図(ゴング)によって知らせる。

- もし終末技の着地が 2 回目の合図と同時ならば**減点はない。**
- もし終末技の着地が 2 回目の合図の後ならば、制限時間を超過したとして減点される。
- もし演技が 1 分 31 秒(91 秒)またはそれ以上の場合、演技時間超過の減点をする。
  - −0.10
- 制限時間の 90 秒を超えた後に実施された技も、D 審判団は価値を認め、E 審判団はそれを採点する。
- 計時に関する違反は、その都度計時審判員が D 審判団に書式にて報告し、D 審判団が最終スコアから減点する。

c) 落下による中断時間：

器械からの落下による演技の中断は10秒まで許される。

- もし、選手が演技再開までの許容時間を超えた場合、それでも選手が演技を続けるならば、中断時間超過の減点−0.30 が適用される。
- 計時審判員 2 は選手が落下後マットに立った時から計時を始める。
- 落下の間の時間は別に計測され演技時間には**含めない**。
- 落下の間、経過時間は秒単位でスコアーボードに表示される。
- 落下時間は平均台に上がるために選手の足がマットから離れた時に終了する。
- 10 秒の制限時間を合図(ゴング)で知らせる。
- もし、選手が 60 秒以内に演技を再開しなければ、演技終了とみなされる。
- 落下後、手をあげて挨拶することは演技再開には必要ではない。
- 計時審判員 1 による演技時間計測の再開は、選手が平均台に再び上がった後、演技再開の最初の動きからとする。

12.2 演技の内容

終末技を含む最大 8 つの高い順からの技が難度点として数えられる。
−終末技なし　　最終スコアから −0.50　(D 審判団)

数えられた 8 つの技の中には少なくとも以下を含めなければならない：
- 3つのダンス系の技
- 3つのアクロバット系の技

残りの2つの技は任意の選択

12.3 構成要求(CR)　− D 審判団　2.00

1．180 度の開脚(前後／左右)または左右開脚屈身のリープ、ジャンプを 1 つは含む、少なくとも 2 つの**異なる**ダンス系の技からなる組み合わせ　0.50 を与える
2．ターン(グループ 3)**または**接転系の技／旋回*　0.50 を与える
3．1 つの宙返りを含む、少なくとも 2 つの空中局面**を伴う技からなるアクロバット系シリーズ(同一技でもよい)　0.50 を与える
4．方向の異なる(前方／側方と後方)アクロバット系の技　0.50 を与える

* 次の技は構成要求2を満たすことができる。
1.303, 1.403, 1.304, 1.207, 1.308, 1.514, 4.203, 4.204, 4.304, 4.105, 4.305, 4.206, 4.306, 4.307, 5.405, 5.505

**空中局面を伴う技は支持があってもまたはなくてもよい。

注：

- 構成要求の 1、2 (ターン)、3 と 4 は台上で実施しなければならない。
- 倒立、姿勢保持の技で構成要求は**満たせない**。
- 接転系の技は、**構成要求 2 のみ**を満たすことができる。

差し替えページ

12.4 組み合わせ点(CV)とシリーズボーナス(SB)　－ D 審判団

a) **組み合わせ点**は直接の組み合わせに与えられる。

b) **組み合わせ点**は D スコアに加算される。

c) **シリーズボーナス**は、3 つまたはそれ以上の技の組み合わせに与えられる。

d) 台をつかんだ場合、組み合わせ点は与えられない。

直接の組み合わせの公式

アクロバット系	
0.10	**0.20**
2つの空中局面を伴うアクロバット系の技 開始技を含んでもよい・終末技は除く すべての組み合わせはリバウンド*でなければならない	
C＋C B＋D(後方)(この順番のみ) B＋E	C／D＋D 以上 B＋D(両方とも前方の技) B＋F

シリーズボーナス(SB)＋0.10

B＋B＋C(順番は自由)またはそれ以上のダンス系または混合、アクロバット系の組み合わせ(*リバウンドとリバウンドではない)に与えられ、組み合わせ点に追加される。開始技、終末技(C 以上)を含んでもよい。

例 1：　B＋B＋C＝シリーズボーナス＋0.10
　　D＋B＋C＝シリーズボーナス＋0.10

例 2：　C＋C＋C

CV+0.1 CV+0.1　シリーズボーナス＋0.10　**合計 CV＋SB＝0.30**

シリーズボーナスを獲得するためには：

- 空中局面を伴わない少なくともB難度以上のアクロバット系の技(姿勢保持系を除く)を使用することができる
- 1 つの組み合わせの中でアクロバット系の同一技(空中局面を伴うまたは伴わない)を繰り返すことができる

*器械の弾性を利用した跳ね返りから一方向へスピードを増す組み合わせ

- 1 つ目の空中局面を伴う支持のある技の着地(両足)がそれに続く 2 つ目の技の踏み切りとなり**直ちに**跳ね返る、または
- 1 つ目の空中局面を伴う支持のある／ない技を片足で着地し、**直ちに**浮き足を着いて 2 つ目の技を両足で踏み切る。

ダンス系と混合 (アクロバット系 -空中局面を伴う技のみ)， 終末技は含まない	
0.10	**0.20**
C＋C 以上(ダンス系) A＋C(ターンのみ) B＋D(混合)	D＋D 以上

注：ターンは、踏み出して逆の脚で実施しなければならない。(片脚または両脚のわずかに膝を曲げた準備動作は認められない)

以下の空中局面を伴う支持のある**Bのアクロバット系の技**は：

- 閉脚後転とび
- 開脚後転とび
- アウエルバッハ後転とび
- ロンダート
- 前転とび

組み合わせ点とシリーズボーナスを得るために演技の中で 2 回目を実施することができるが、2 回目の実施で構成要求を得ることはできない。

差し替えページ

13.3 構成要求(CR)　－ D 審判団　2.00

1．180 度の開脚(前後／左右)または左右開脚屈身の跳躍技を 1 つは含む 2 つの異なるリープまたはホップ(難度表にある)の直接または間接(ランニングステップ、小さなリープ、ホップ、シャッセ、シェネターンが入った)の組み合わせでの移動　0.50 を与える

（このねらいは流れるように大きく移動する動きを作ることにある）

- ジャンプやターンは移動がないので認められない。シェネターン(両足上での½ターン)は移動するステップなので間に入ることが認められる。
- ダンス系の技での移動で1つ目のリープまたはホップは片足で着地しなければならない。

2．ひねり(1 回ひねり以上)を伴う宙返り　0.50 を与える
3．2 回宙返り　0.50 を与える
4．同じまたは異なるアクロラインで後方宙返りと前方宙返り(片足踏み切りの宙返りは除く)　0.50 を与える

注：構成要求の 2、3、4 はアクロラインの中で実施しなければならない。

13.4 組み合わせ点(CV)　－ D 審判団

a) 組み合わせ点は間接(アクロバット系)と直接(アクロバット系、混合、ターン)の組み合わせに与えられる。

b) 組み合わせ点は D スコアに加算される。

間接と直接の組み合わせの公式

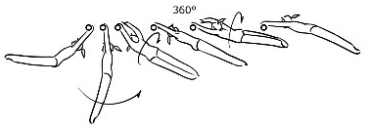
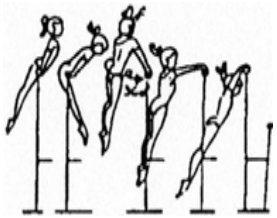
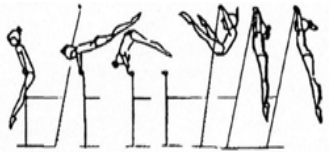
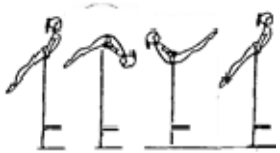
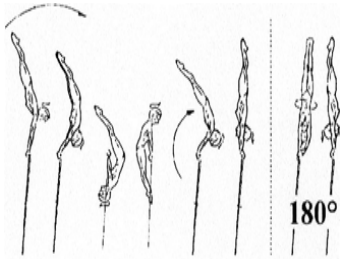
間接のアクロバット系の技の組み合わせ	
0.10	**0.20**
B／C＋D	C＋E D＋D
A＋A＋D	A＋A＋E
直接のアクロバット系の技の組み合わせ	
A＋D	A＋E
C＋C	C＋D
混　　合	
D(宙返り)＋B(ダンス系) E(宙返り)＋A(ダンス系) (この順番のみ)	
片足上でのターンの組み合わせ	
D＋B	**注：**ターンは踏み出して逆の脚で実施しなければならない。(わずかに膝を曲げた準備動作は認められない)

間接の組み合わせとは、宙返りと宙返りの間に、空中局面を伴う支持のある技(例えばロンダート、後転とび等の準備的な技)が入る組み合わせをいう。

注：組み合わせ点のためのアクロバット系の技は支持のない技のみである。

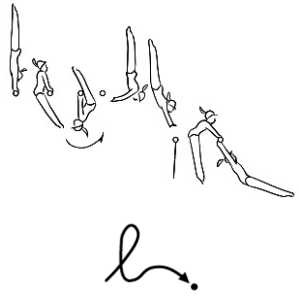
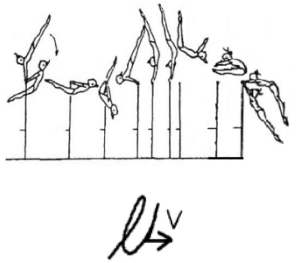
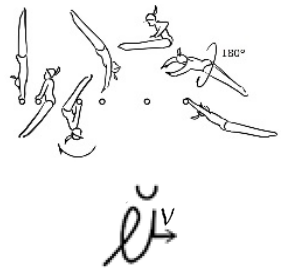
差し替えページ

2.000 — 後ろ振り上げ系の技と浮支持回転系の技

A	B	C	D	E	F/G
2.103	**2.203** 高棒懸垂～後ろ振り１回ひねり～高棒懸垂  	**2.303** 高棒支持～後ろ振り～手を放して１回ひねり～高棒懸垂 ***(Caslavska)***  	**2.403** 低棒外向き支持～後ろ振り上げ前方宙返り～上移動高棒懸垂[ラドフラ宙返り] ***(Radochla)***  	**2.503** 高棒支持～後ろ振り上げ前方開脚宙返り～高棒懸垂[コマネチ宙返り] ***(Comaneci)*** 	**2.603**
2.104 前方支持回転(棒に接しながら)  	**2.204**	**2.304**	**2.404** 前方浮支持回転倒立、または1/2ひねり[ウェイラーキップ]  	**2.504**	**2.604**

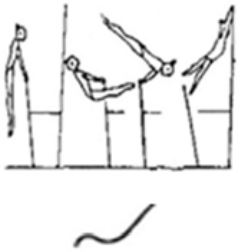
差し替えページ

2.000 ― 後ろ振り上げ系の技と浮支持回転系の技

A	B	C	D	E	F/G
2.106	**2.206** 低棒棒下振り出し～切り返しを伴った上移動高棒懸垂 	**2.306** 高棒内向き、後方浮支持回転前とび出し～下移動低棒浮支持 ***(Pedrick)*** 	**2.406** 低棒外向き支持～後方浮支持回転倒立～背面とび出し～上移動高棒懸垂 ***(Shaposhnikova)*** 	**2.506** 後方浮支持回転～開脚背面とび越し～高棒懸垂 ***(Hindorff)*** 後方浮支持回転倒立～背面とび出し1/2ひねり～上移動高棒懸垂 ***(Khorkina)*** 	**2.606 - F -** 後方浮支持回転～屈身背面とび越し～高棒懸垂 ***(Shang)***  後方浮支持回転～開脚背面とび越し1/2ひねり～片大逆手高棒懸垂 ***(Martins)*** **2.706 - G -** (高棒)後方浮支持回転～屈身背面とび越し1/2ひねり～片大逆手高棒懸垂 ***(Black)*** 

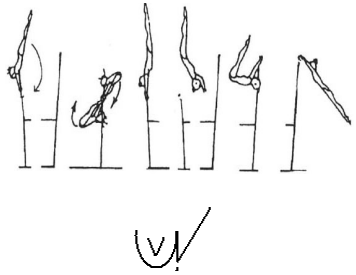
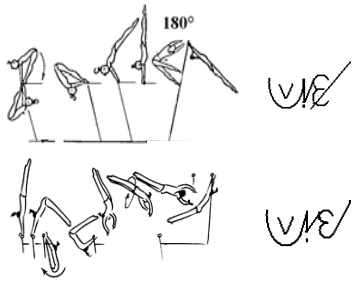
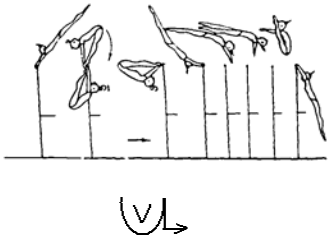
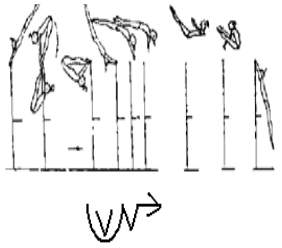
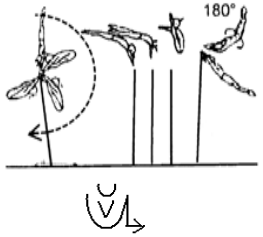
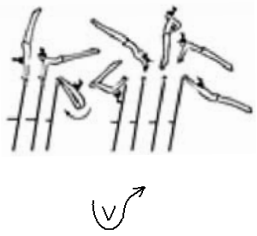
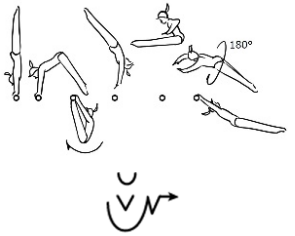
差し替えページ

2.000 ―後ろ振り上げ系の技と浮支持回転系の技

A	B	C	D	E	F/G
		2.307 低棒支持～後方浮支持回転前とび出し～上移動高棒懸垂 ***(Yarotska)*** 	**2.407** 低棒支持～後方浮支持回転前とび出し(閉脚、開脚)～1/2ひねり上移動高棒懸垂 		

差し替えページ

5.000 — 屈身回転系の技

A	B	C	D	E	F/G
5.109	**5.209**	**5.309**	**5.409** 低棒外向き支持～後方屈身足裏支持回転倒立～背面とび出し～上移動高棒懸垂 ***(Maloney)*** 	**5.509** 低棒外向き支持～後方屈身足裏支持回転倒立～背面とび出し1/2ひねり～上移動高棒懸垂 ***(Van Leeuwen)***、 または１回ひねり ***(Seitz)*** 	
5.110	**5.210**	**5.310**	**5.410** 後方屈身足裏支持回転～開脚背面とび越し～高棒懸垂 ***(Ray)*** 	**5.510** 後方屈身足裏支持回転～屈身背面とび越し～高棒懸垂 ***(Church)***  後方屈身足裏支持回転～開脚背面とび越し1/2ひねり～片大逆手高棒懸垂 ***(Tweddle)*** 	**5.610 - F -** 後方屈身足裏支持回転～伸身背面とび越し(伸身姿勢で棒を越える)～高棒懸垂 ***(Nabieva)***  (高棒)後方屈身足裏支持回転～屈身背面とび越し1/2ひねり～片大逆手高棒懸垂 ***(Fenton)*** 

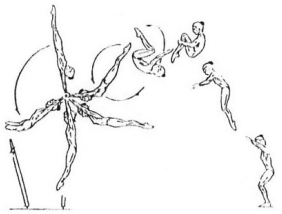
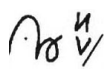
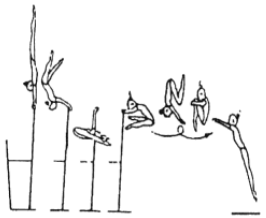
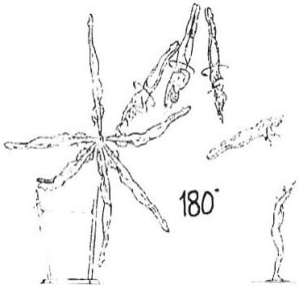
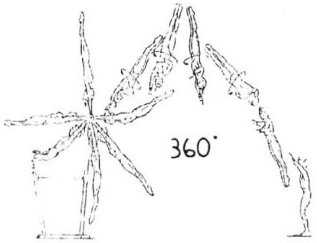
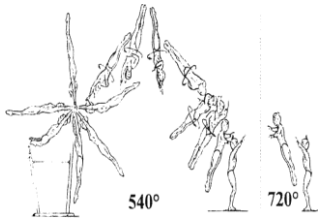
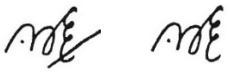
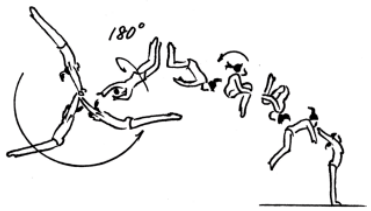
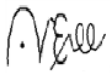
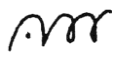
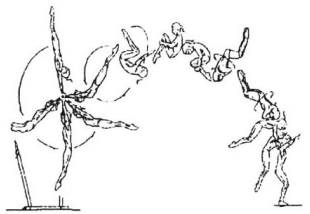
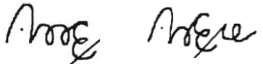
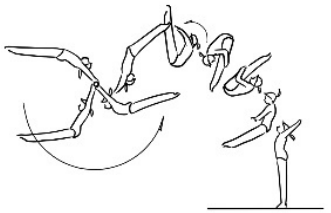
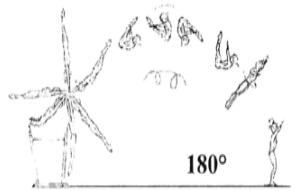
差し替えページ

5.000 — 屈身回転系の技

A	B	C	D	E	F/G
					5.710 - G - 後方屈身足裏支持回転～伸身背面とび越し (伸身姿勢で棒を越える)1/2ひねり～片大逆手 高棒懸垂 ***(Derwael)***

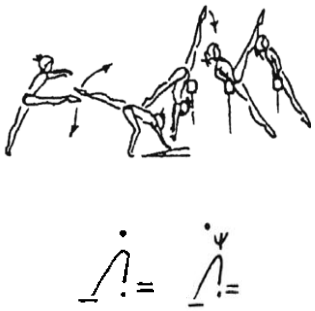
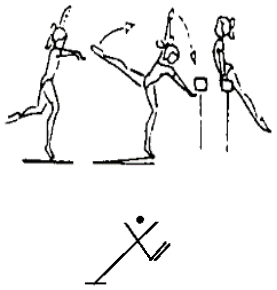
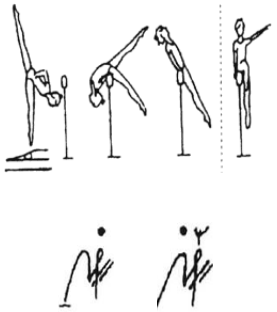
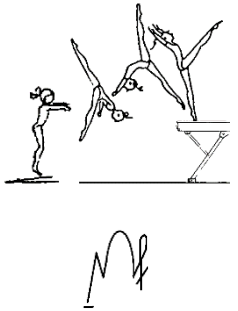
差し替えページ

6.000 — 終末技

A	B	C	D	E	F/G
6.108 後ろ振り～前方宙返り(かかえ込み、屈身、伸身)下り、または高棒で前方開脚浮腰回転～後ろ振り～前方かかえ込み宙返り下り    	**6.208** 後ろ振り～前方宙返り(かかえ込み、伸身)1/2ひねり下り、または１回ひねり下り   	**6.308** 後ろ振り～前方伸身宙返り１1/2ひねり下り、または２回ひねり下り ***(Pechstein)***   大逆手、後ろ振り～1/2ひねり～後方かかえ込み２回宙返り下り ***(Fan)***  	**6.408** 後ろ振り～前方かかえ込み２回宙返り下り 	**6.508** 後ろ振り～前方かかえ込み２回宙返り1/2ひねり下り、または前方宙返り1/2ひねり～後方かかえ込み宙返り下り ***(Arai)***   後ろ振り～前方屈身２回宙返り下り ***(Stewart)***  	**6.608 - F -** 後ろ振り～前方屈身２回宙返り1/2ひねり下り ***(Pentek)*** 

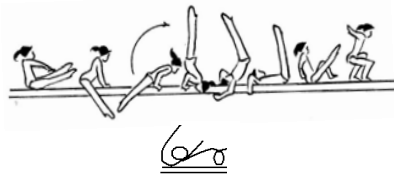
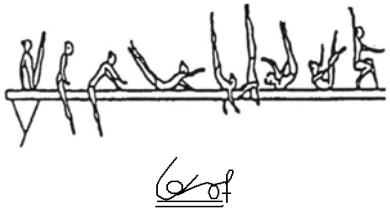
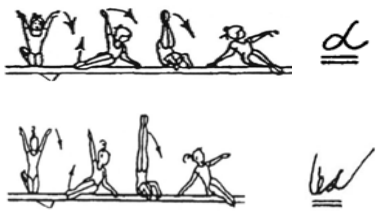
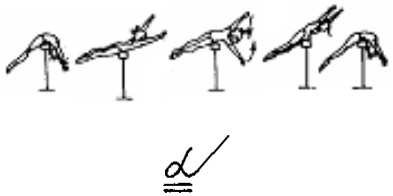
差し替えページ

1.000 — 開始技

A	B	C	D	E	F/G
1.115	**1.215** 台の横へ、跳躍板上の手支持による前転とび、背面支持、または1/4ひねり、縦向きに大腿部で座  台の横へ、台をつかみ、側方倒立回転から正面支持 	**1.315** 台の横へ、前方開脚伸身宙返り、背面支持、または1/4ひねり、縦向きに大腿部で座 	**1.415**	**1.515**	**1.615 - F -** 台の端へ、両足踏み切り、前方開脚伸身宙返り、縦向き着台 

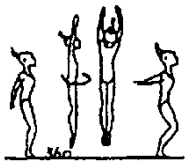
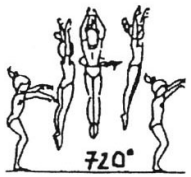
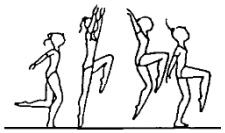
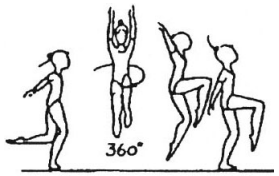
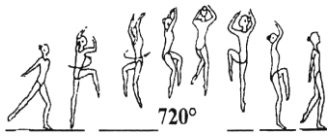
差し替えページ

4.000 — 姿勢保持系と空中局面を伴わないアクロバット系の技

A	B	C	D	E	F/G
4.104	**4.204** 手支持なしで前転、座の姿勢または しゃがみ立ちへ 台をまたいだ座から後ろへ振り上げ、腰を伸ばし肩を経過した前転、座の姿勢またはしゃがみ立ちへ 	**4.304** 手支持なしで腰を伸ばし肩を経過した前転、座の姿勢またはしゃがみ立ちへ 	**4.404**	**4.504**	**4.604**
4.105 台上で手支持した後転、片足または両足着台 	**4.205**	**4.305** 後転倒立、台に触れた姿勢へ 	**4.405**	**4.505**	**4.605**
4.106	**4.206** かかえ込み姿勢で横転、または(伸身姿勢、開脚屈身姿勢)で首倒立を経過した横転、または肩を経過して1/2ひねり 	**4.306** 伸身姿勢で横転 	**4.406**	**4.506**	**4.606**

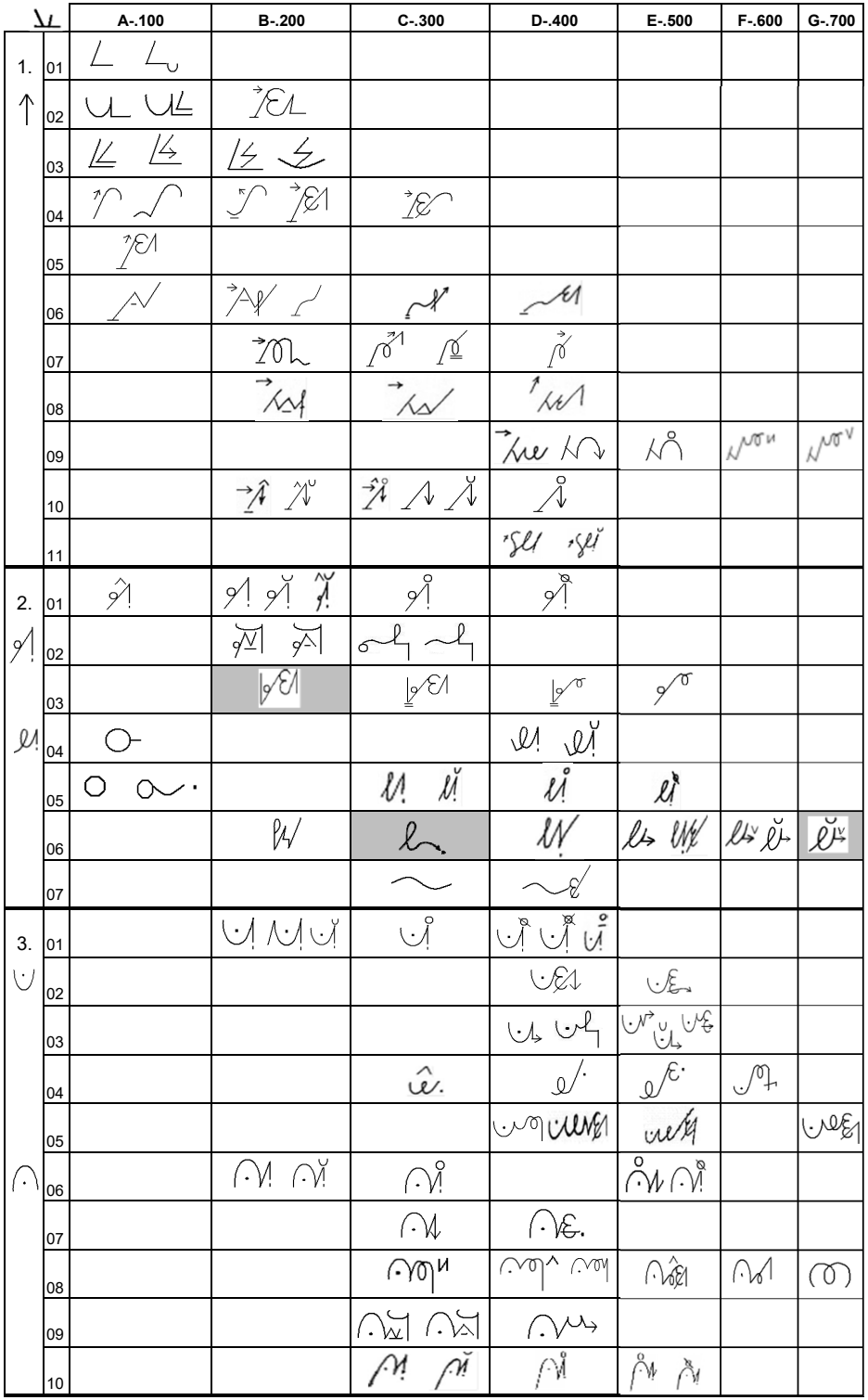
差し替えページ

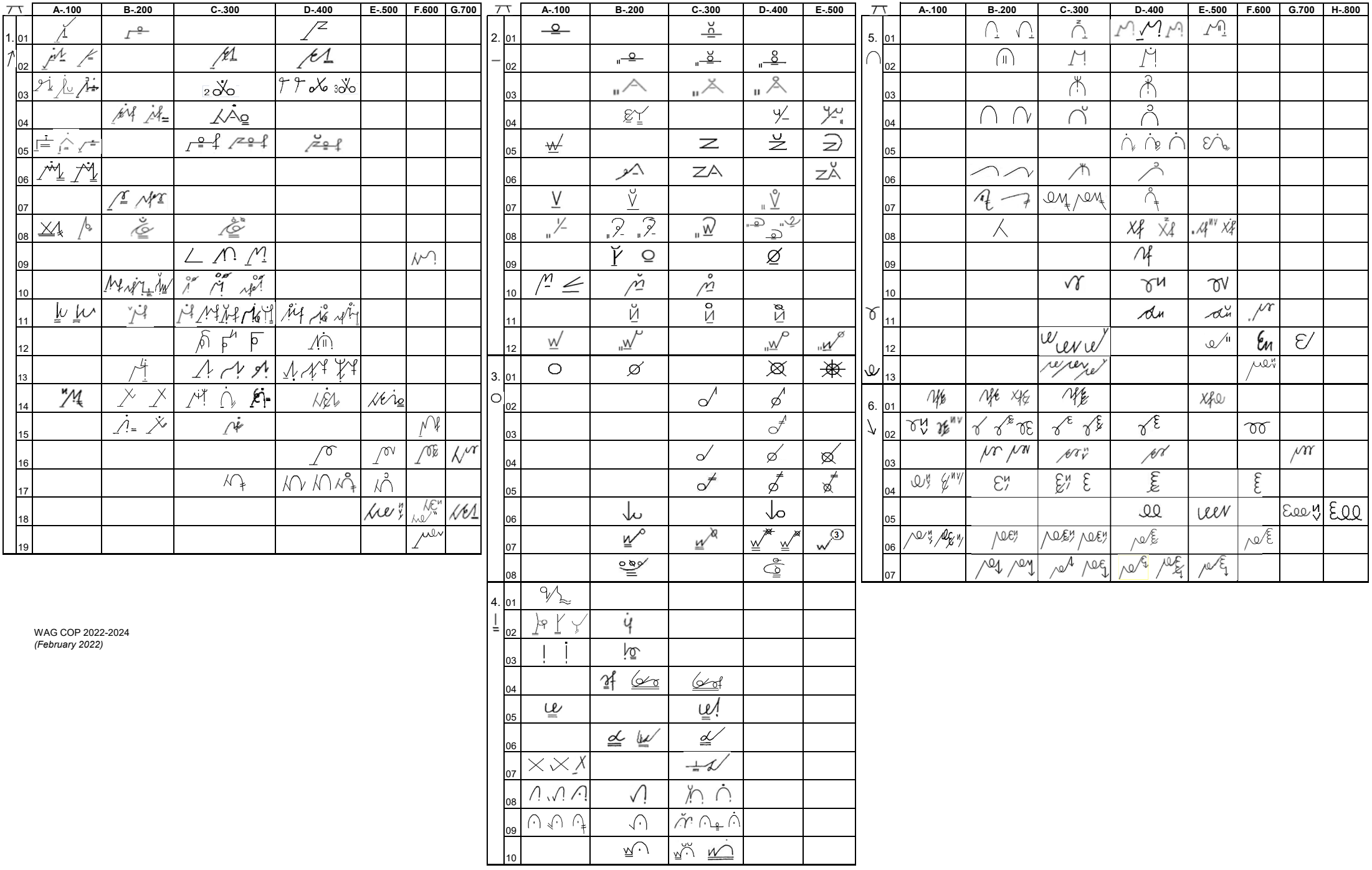
1.000 — ダンス系リープ・ジャンプ・ホップ

A	B	C	D	E	F/G
1.110 (片足、両足)踏み切り、伸身とび１回ひねり、浮脚は自由  	**1.210**	**1.310** (片足、両足)踏み切り、伸身とび２回ひねり  	**1.410**	**1.510**	**1.610**
1.111 ねことび(膝は交互に水平より上)  	**1.211** ねことび１回ひねり  	**1.311** ねことび２回ひねり  	**1.411**	**1.511**	**1.611**

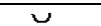
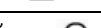
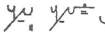
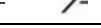
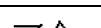
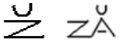
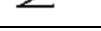
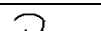
2022 FIG Vault Table

GROUP I			GROUP II			GROUP III			GROUP IV			GROUP V		
1,00		1,60	Qualification: 1 vault must be performed. This vault score counts for Team & AA total											
1,01		2.00	If the gymnast has been registered in the start list to qualify for Apparatus Finals a 2nd vault must be performed											
1,02		2.60	Score of both vaults averaged = Final Score											
1,03		3.20	Team & AA Finals: 1 vault must be performed											
1,04		3.60	Apparatus Final: The 2 vaults must be from different groups and have different 2nd flight phases											
1,05		4.00												
1,10		2.00	2,10		3.60	3,10		3.20	4,10		3.00	5,10		3.80
1,11		2.40	2,11		3.80	3,11		3.40	4,11		3.20	5,11		4.00
1,12		2.80				3,12		3.80	4,12		3.60			
			2,12		4.20	3,13		4.20	4,13		4.00	5,12		4.40
			2,13		4.60	3,14		4.60	4,14		4.40	5,13		4.80
1,20		1.60	2,20		3.80	3,20		3.40	4,20		3.20	5,20		4.00
1,21		2.40	2,21		4.00							5,21		4.20
1,22		2.60												
1,23		3.20	2,22		4.40							5,22		4.60
1,24		3.60												
1,30		3.20	2,30		4.40	3,30		3.80	4,30		3.60	5,30		4.60
1,31		3.60	2,31		4.60	3,31		4.00	4,31		3.80	5,31		4.80
			2,32		5.00	3,32		4.40	4,32		4.20	5,32		5.20
1,40		2.00	2,33		5.40	3,33		4.80	4,33		4.60	5,33		5.60
			2,34		5.80	3,34		5.20	4,34		5.00	5,34		6.00
						3,35		5.60	4,35		5.40			
1,50		2.20	2,40		4.80				4,40		3,60			
1,51		2.60	2,41		5.20				4,41		4.00			
1,52		3.00							4,42		4,20			
1,53		3.40	2,50		6.00				4,50		3,80			
1,60		2.40							4,51		4,20			
1,61		2.80							4,52		4.60			
1,62		3.20							4,53		5.00			


A-.100
B-.200
C-.300
D-.400
E-.500
F-.600
G-.700
1.
2.
3.
4.
5.
6.



WAG COP 2022-2024
(February 2022)

		A-.100	B-.200	C-.300	D-.400	E-.500
1.	01					
	02					
	03					
	04					
	05					
	06					
	07					
	08					
	09					
	10					
	11					
	12					
	13					
	14					
2.	01					
	02					
	03					
	04					
	05					
	06					
	07					
	08					

		A-.100	B-.200	C-.300	D-.400	E-.500	F-.600	G-.700	H-.800	I-.900	J-1.00
3.	01										
	02										
	03										
	04										
	05										
	06										
	07										
4.	01										
	02										
	0.3										
	04										
	05										
5.	01										
	02										
	03										
	04										

WAG COP 2022-2024
(November 2021)

第 51 回世界体操競技選手権大会審判員報告

審判委員会体操競技女子審判本部
本部員　高橋　洋子
本部員　白川　千尋

Ⅰ　開催地

イギリス　リバプール

Ⅱ　大会期日

2022 年 10 月 25 日（火）～11 月 8 日(火)

Ⅲ　スケジュール

10 月 25 日（火）　出国
10 月 26 日（水）　現地到着
10 月 27 日（木）　女子審判会議、抽選（予選）
10 月 28 日（金）　女子ポディウム練習
10 月 29 日（土）　女子競技　予選　１日目
10 月 30 日（日）　女子競技　予選　２日目
10 月 31 日（月）　男子競技　予選
11 月　１日（火）　女子競技　団体決勝、抽選（団体決勝）
11 月　２日（水）　男子競技　団体決勝
11 月　３日（木）　女子競技　個人総合決勝、抽選（個人総合）
11 月　４日（金）　男子競技　個人総合決勝、女子ラウンドテーブル
11 月　５日（土）　男女競技　種目別決勝　１日目、抽選（種目別１）
11 月　６日（日）　男女競技　種目別決勝　２日目、抽選（種目別２）
11 月　７日（月）　出国
11 月　８日（火）　日本　到着

Ⅳ　選手団

田中　光	女子体操競技強化本部長
田野辺　満	コーチ
金谷　麻理子	コーチ
上村　美揮	コーチ
笹田　夏実	コーチ
黒阪　翔	サポートスタッフ
大野　達哉	トレーナー
喜友名　翼	ドクター
宮田　笙子	選手
山田　千遥	選手
坂口　彩夏	選手
深沢　こころ	選手
渡部　葉月	選手
芦川　うらら	選手
高橋　洋子	審判員
白川　千尋	審判員

Ⅴ　参加国および参加選手数

女子参加国：60 か国
女子参加選手数：170 名

Ⅵ　審判打合せ

日時：10 月 27 日 13:30～17:30

1　全体インフォメーション　FIG 技術委員長 SACCHI Donatella 氏

⑴　マークの規則について

ア　大きさは 30 平方センチメートル以上。

イ　国旗または国名（３文字の国コードでも可）を表記すること。

ウ　国旗と国名を組み合わせて１つのマークにしてはいけない。

エ　本大会では大きさや表示の減点は適用しないが、2023 年世界ジュニア選手権大会からは減点とする。

⑵　不適切な服装について

臀部の大部分が出てしまうようなレオタードの着用は減点対象となる。

⑶　本サイクルによる国際試合での新技一覧

2　各種目 E 審判向け技術インストラクション

⑴　平均台　技術委員 DAVYDOVA Elena 氏

ア　種目特有の減点項目について映像による確認

イ　技の評価についての映像確認

ウ　芸術性と構成の減点項目について映像確認

エ　映像サンプルによる採点練習

⑵　ゆか　技術委員 DOWDELL Kym 氏

ア　芸術性について、審判員による実践演習

イ　種目特有の減点項目について映像確認

ウ　音楽と音楽性の減点項目について映像確認

エ　技の評価について映像確認

オ　映像サンプルによる採点練習

⑶　段違い平行棒　技術委員 ZAYED Nehad 氏

ア　一般欠点および種目特有の減点項目について映像確認

イ　技の評価について映像確認

ウ　映像サンプルによる採点練習

⑷　跳馬　技術委員 LARIO Helena Beatriz 氏

ア　一般欠点および種目特有の減点項目について映像確認

イ　映像サンプルによる採点練習

3　審判編成抽選結果

⑴　予選　　平均台　E７　白川千尋

⑵　個人総合決勝　平均台　E３　高橋洋子

Ⅶ　女子ラウンドテーブル

日時：11 月４日 13:30～15:30

1　一般規則の確認

⑴　マークの規則について

ア　大きさは 30 平方センチメートル以上。

イ　国旗または国名を表記すること。組み合わせて表記することは認められない。

ウ　今大会では表記や大きさに問題のあるチームが見受けられるが、減点はしていない。2023 年世界ジュニア大会からは減点とする。

⑵　不適切な服装について
今大会の予選では、臀部の大部分が見えてしまうレオタードの着用による減点が２件あった。落ち着いて演技することができるよう適切なレオタードを着用するべき。

⑶　器械の準備について
ア　ローテーションのコールや音楽が始まったら、コーチまたは控え選手が器械の準備をすることができる。
跳馬・平均台・ゆか（必要に応じて）：１名
段違い：２名
イ　種目別決勝の段違い平行棒では、正規のコーチ以外の追加のコーチまたは選手が器械の準備をする場合、当該選手の演技が終了したら直ちに競技エリアから離れなければならない。

２　跳馬について
⑴　ひねりを伴わない後方伸身宙返りの承認確認
⑵　前方伸身宙返り 1/2 ひねりの承認確認
⑶　次期サイクルに向けた課題提示と意見交流
ア　１回ひねり以上の前方伸身宙返りの承認について
イ　グループ５の跳躍技の減点項目について

３　段違い平行棒について
⑴　次期サイクルに向けた課題提示と意見交流
ア　トカチェフ系 1/2 ひねりの承認について

４　平均台とゆかのダンス系について
⑴　輪とびの承認について確認
⑵　過度な準備動作の減点について確認
⑶　ターンにおける正確さ 0.1 の減点について確認

５　平均台について
⑴　横向きの 1/2 ひねりジャンプの承認について確認
⑵　横向きの動きについて確認
⑶　台に接する平均台に近い動きについて確認

６　ゆかについて
⑴　　次期サイクルに向けた課題提示と意見交流
ア　後ろとび 1/2 ひねり前方２回宙返りを前方系としていることについて
イ　後ろとび 1/2 ひねり前方２回宙返りから 1/2 ひねりの承認について

Ⅷ　結果概況

１　団体総合について
⑴　全体結果
予選および決勝におけるチーム得点・チーム D スコア・チーム E スコアの結果は、表のとおり。
予選では上位国でも落下や転倒などの大過失が数々見受けられた中、日本は大過失なく演技し、予選通過８カ国中、D スコア合計６位、E スコア合計５位、全体５位で決勝進出した。チーム得点 162 点台の国が３か国（イタリア・日本・中国）と、僅差の予選結果であった。

表-１　予選上位８カ国のチーム得点およびＤ・Ｅスコア

種目順位	国	得点					Dスコア合計						Eスコア合計					
		VT	UB	BB	FX	合計	VT	UB	BB	FX	合計	順位	VT	UB	BB	FX	合計	順位
1	USA	43.266	41.965	40.066	41.966	167.263	15.6	17.6	16.6	17.6	67.4	1	27.666	24.365	23.466	24.366	99.863	1
2	GBR	43.132	41.465	38.965	41.033	164.595	15.0	17.4	16.9	16.5	65.8	2	28.132	24.065	22.165	24.633	98.995	2
3	BRA	41.832	41.099	38.766	41.866	163.563	14.8	16.8	16.7	17.4	65.7	3	27.032	24.299	22.166	24.566	98.063	4
4	ITA	42.133	42.766	37.333	40.566	162.798	14.2	18.0	16.2	16.5	64.9	5	27.933	24.766	21.133	24.366	98.198	3
5	日本	41.633	40.399	40.766	39.766	162.564	14.6	17.4	16.8	16.0	64.8	6	27.033	22.999	23.966	23.866	97.864	5
6	CHN	39.833	43.833	39.199	39.199	162.064	13.6	18.9	17.1	15.7	65.3	4	26.233	24.933	22.099	23.799	97.064	7
7	FRA	42.132	41.099	38.465	39.732	161.428	15.4	17.4	16.3	15.7	64.8	6	26.832	23.699	22.165	24.132	96.828	8
8	CAN	41.199	39.965	38.665	39.832	159.661	14.4	15.9	16.0	15.6	61.9	8	26.799	24.065	22.665	24.232	97.761	6

表-２　団体決勝のチーム得点およびＤ・Ｅスコア

種目順位	国	得点					Dスコア合計						Eスコア合計					
		VT	UB	BB	FX	合計	VT	UB	BB	FX	合計	順位	VT	UB	BB	FX	合計	順位
1	USA	43.133	42.199	39.399	41.833	166.564	15.6	17.9	16.8	17.6	67.9	1	27.633	24.299	22.699	24.233	98.864	1
2	GBR	42.699	40.533	39.299	40.832	163.363	15.0	17.3	16.8	16.4	65.5	2	27.699	23.233	22.799	24.432	98.163	2
3	CAN	41.699	40.099	39.632	39.133	160.563	14.6	16.2	16.4	15.4	62.6	8	27.099	23.899	23.232	23.833	98.063	3
4	BRA	41.465	41.499	37.332	39.365	159.661	14.0	17.4	15.8	16.3	63.5	6	27.465	24.099	21.532	23.065	96.161	4
5	ITA	41.632	39.366	39.766	38.699	159.463	13.8	17.5	16.4	15.7	63.4	7	27.832	21.866	23.366	22.999	96.063	5
6	CHN	40.199	41.966	37.366	37.998	157.529	13.6	18.7	17.3	15.4	65.0	3	26.599	23.266	20.166	22.598	92.629	7
7	日本	42.200	35.832	38.999	39.933	156.964	14.6	16.4	16.7	16.2	63.9	4	27.600	19.432	22.299	23.733	93.064	6
8	FRA	41.400	39.465	36.499	38.499	155.863	15.4	17.4	15.8	15.3	63.9	4	26.300	22.065	20.799	23.199	92.363	8

決勝における日本チームは、Ｄスコア合計４位、Ｅスコア合計６位、チーム得点７位の結果であった。

決勝ではほとんどの国が予選より得点を伸ばすことができなかった中、カナダだけが予選を上回る得点を獲得した。同チームはＤスコア合計では予選・決勝ともに予選通過８カ国中８位であったが、Ｅスコア合計では３位であり、最終的に決勝順位３位となったことが特筆すべき点である。

決勝６位～８位の中国･日本･フランスはＤスコア合計では３位･４位と上位ではあるものの、Ｅスコア合計では６位～８位であり、実施が最終順位に大きく影響することが伺える。

⑵　跳馬について

予選および決勝におけるチーム得点・チーム Ｄ スコア・チーム Ｅ スコアの結果は、表のとおり。

日本は予選ではＤスコア合計５位、Ｅスコア合計４位、チーム得点６位、決勝では、Ｄスコア合計４位、Ｅスコア合計４位、チーム得点３位の成績であった。

表-３　予選上位８カ国の跳馬チーム得点およびＤ・Ｅスコア

種目順位	国名	種目スコア					Dスコア						Eスコア					
		選手A	選手B	選手C	合計	平均	選手A	選手B	選手C	合計	順位	平均	選手A	選手B	選手C	合計	順位	平均
1	USA	14.600	14.466	14.200	43.266	14.422	5.6	5.0	5.0	15.6	1	5.20	9.000	9.466	9.200	27.666	3	9.222
2	GBR	14.466	14.400	14.266	43.132	14.377	5.0	5.0	5.0	15.0	3	5.00	9.466	9.400	9.266	28.132	1	9.377
3	ITA	14.233	14.200	13.700	42.133	14.044	5.0	4.6	4.6	14.2	7	4.73	9.233	9.600	9.100	27.933	2	9.311
4	FRA	14.433	14.033	13.666	42.132	14.044	5.4	5.0	5.0	15.4	2	5.13	9.033	9.033	8.766	26.832	6	8.944
5	BRA	15.066	13.833	12.933	41.832	13.944	5.6	5.0	4.2	14.8	4	4.93	9.466	8.833	8.733	27.032	5	9.010
6	日本	14.300	14.000	13.333	41.633	13.877	5.0	5.0	4.6	14.6	5	4.86	9.300	9.000	8.733	27.033	4	9.011
7	CAN	13.900	13.666	13.633	41.199	13.733	5.0	4.8	4.6	14.4	6	4.80	8.900	8.866	9.033	26.799	7	8.933
8	CHN	13.833	13.000	13.000	39.833	13.277	5.2	4.2	4.2	13.6	8	4.53	8.633	8.800	8.800	26.233	8	8.744

表-４　団体決勝の跳馬チーム得点およびＤ・Ｅスコア

種目順位	国名	種目スコア					Dスコア						Eスコア					
		選手A	選手B	選手C	合計	平均	選手A	選手B	選手C	合計	順位	平均	選手A	選手B	選手C	合計	順位	平均
1	USA	14.800	14.400	13.933	43.133	14.377	5.6	5.0	5.0	15.6	1	5.20	9.200	9.400	9.033	27.633	3	9.211
2	GBR	14.366	14.200	14.133	42.699	14.233	5.0	5.0	5.0	15.0	3	5.00	9.366	9.200	9.133	27.699	2	9.233
3	日本	14.400	14.200	13.600	42.200	14.066	5.0	5.0	4.6	14.6	4	4.86	9.400	9.200	9.000	27.600	4	9.200
4	CAN	14.200	13.866	13.633	41.699	13.899	5.0	5.0	4.6	14.6	4	4.86	9.200	8.866	9.033	27.099	6	9.033
5	ITA	14.300	13.866	13.466	41.632	13.877	5.0	4.6	4.2	13.8	7	4.60	9.300	9.266	9.266	27.832	1	9.277
6	BRA	15.166	13.166	13.133	41.465	13.821	5.6	4.2	4.2	14.0	6	4.66	9.566	8.966	8.933	27.465	5	9.155
7	FRA	14.000	13.700	13.700	41.400	13.800	5.0	5.0	5.4	15.4	2	5.13	9.000	8.700	8.600	26.300	8	8.766
8	CHN	13.933	13.133	13.133	40.199	13.399	5.2	4.2	4.2	13.6	8	4.53	8.733	8.933	8.933	26.599	7	8.866

日本はこれまで 5.0 以上の跳躍技を目標に取り組んできた結果、D スコア合計および E スコア合計ともに上位国に追い付いてきたことが伺える。

5.0 以上の跳躍技でも、伸身姿勢を保てない・着地姿勢などの実施減点があれば 8 点台の E スコアとなり、結果的にチーム得点を伸ばすことができない傾向であった。（参考：フランス　決勝 D スコア合計２位、E スコア合計８位、全体７位）。

今後日本チームとしては、5.0 以上の跳躍技で宙返りの姿勢欠点や着地姿勢の減点の少ない実施が求められる。

⑶　段違い平行棒について

予選および決勝におけるチーム得点・チーム D スコア・チーム E スコアの結果は、表のとおり。

日本チームは予選において D スコア合計５位、E スコア合計８位、チーム得点７位、決勝においては大過失があり、予定していた D スコアを獲得することができず、D スコア合計７位、E スコア合計８位、チーム得点８位であった。

表-５　予選上位８カ国の段違い平行棒チーム得点およびＤ・Ｅスコア

種目順位	国名	種目スコア					Dスコア						Eスコア					
		選手A	選手B	選手C	合計	平均	選手A	選手B	選手C	合計	順位	平均	選手A	選手B	選手C	合計	順位	平均
1	CHN	14.900	14.600	14.333	43.833	14.611	6.4	6.4	6.1	18.9	1	6.30	8.500	8.200	8.233	24.933	1	8.311
2	ITA	14.400	14.200	14.166	42.766	14.255	6.3	5.9	5.8	18.0	2	6.00	8.100	8.300	8.366	24.766	2	8.255
3	USA	14.566	14.066	13.333	41.965	13.988	6.3	5.9	5.4	17.6	3	5.86	8.266	8.166	7.933	24.365	3	8.121
4	GBR	14.166	14.133	13.166	41.465	13.821	6.0	5.8	5.6	17.4	5	5.80	8.166	8.333	7.566	24.065	5	8.021
5	BRA	14.666	13.233	13.200	41.099	13.699	6.1	5.6	5.1	17.6	3	5.60	8.566	7.633	8.100	24.299	4	8.099
5	FRA	14.400	13.466	13.233	41.099	13.699	6.3	5.8	5.3	17.4	5	5.80	8.100	7.666	7.933	23.699	7	7.899
7	日本	13.666	13.500	13.233	40.399	13.466	5.7	6.2	5.5	17.4	5	5.80	7.966	7.300	7.733	22.999	8	7.666
8	CAN	13.933	13.166	12.866	39.965	13.321	5.7	5.3	4.9	15.9	8	5.30	8.233	7.866	7.966	24.065	5	8.021

表-６　団体決勝の段違い平行棒チーム得点およびＤ・Ｅスコア

種目順位	国名	種目スコア					Dスコア						Eスコア					
		選手A	選手B	選手C	合計	平均	選手A	選手B	選手C	合計	順位	平均	選手A	選手B	選手C	合計	順位	平均
1	USA	14.333	14.100	13.766	42.199	14.066	6.3	5.9	5.7	17.9	2	5.96	8.033	8.200	8.066	24.299	1	8.099
2	CHN	14.733	14.400	12.833	41.966	13.988	6.6	6.4	5.7	18.7	1	6.23	8.133	8.000	7.133	23.266	4	7.755
3	BRA	14.633	13.666	13.200	41.499	13.833	6.2	5.6	5.6	17.4	5	5.80	8.433	8.066	7.600	24.099	2	8.033
4	GBR	14.100	13.633	12.800	40.533	13.511	6.0	5.7	5.6	17.3	6	5.76	8.100	7.933	7.200	23.233	5	7.744
5	CAN	14.033	13.633	12.433	40.099	13.366	5.7	5.7	4.8	16.2	8	5.40	8.333	7.933	7.633	23.899	3	7.966
6	FRA	13.433	13.066	12.966	39.465	13.155	5.9	6.2	5.3	17.4	4	5.80	7.533	6.866	7.666	22.065	6	7.355
7	ITA	14.166	13.500	11.700	39.366	13.122	5.8	6.2	5.5	17.5	3	5.83	8.366	7.300	6.200	21.866	7	7.288
8	日本	13.666	12.766	9.400	35.832	11.944	5.7	5.5	5.2	16.4	7	5.46	7.966	7.266	4.200	19.432	8	6.477

これまで日本の課題とされてきた種目であるが、近年、複数の空中局面を伴う技の習得や組み合わせ点を獲得できる組み合わせに積極的に取り組んできた結果、予選では D スコア合

計５位、３位のアメリカ・ブラジルとは 0.2 の差であり、上位国に追いついてきたことが伺える。

しかし、E スコアにおいては予選・決勝とも８位の成績であり、特に予選では３選手とも大過失なく演技したにも関わらず、他国との差が顕著であった。日本は他国と比較すると空中局面を伴う技の大きさやスイングの大きさ、空中局面を伴う技で棒を握る際の腕の曲がり、ひねりを伴う技の完了角度などに欠点が多い印象であった。

上位に食い込むためには 14.000 以上のスコアが必要であるため、今後は高い D スコアの獲得を目指しつつも、確実に 8.000 以上のＥスコアを獲得できるよう、振幅の大きい実施、姿勢欠点のない正確な技の実施を目指していく必要がある。

⑷　平均台について

予選および決勝におけるチーム得点・チーム D スコア・チーム E スコアの結果は、表のとおり。

表-7　予選上位８カ国の平均台チーム得点および D・E スコア

種目順位	国名	種目スコア					Dスコア						Eスコア					
		選手A	選手B	選手C	合計	平均	選手A	選手B	選手C	合計	順位	平均	選手A	選手B	選手C	合計	順位	平均
1	日本	13.700	13.600	13.466	40.766	13.588	5.8	5.4	5.6	16.8	3	5.60	7.900	8.200	7.866	23.966	1	7.988
2	USA	13.733	13.200	13.133	40.066	13.355	6.0	5.2	5.4	16.6	5	5.53	7.733	8.000	7.733	23.466	2	7.822
3	CHN	13.900	12.833	12.466	39.199	13.066	6.2	5.2	5.7	17.1	1	5.70	7.700	7.633	6.766	22.099	7	7.366
4	GBR	13.066	12.966	12.933	38.965	12.988	5.8	5.7	5.4	16.9	2	5.63	7.366	7.266	7.533	22.165	5	7.388
5	BRA	13.400	12.900	12.466	38.766	12.922	5.8	5.7	5.2	16.7	4	5.56	7.600	7.200	7.366	22.166	4	7.388
6	CAN	13.266	12.866	12.533	38.665	12.888	5.5	5.4	5.1	16.0	8	5.33	7.766	7.466	7.433	22.665	3	7.555
7	FRA	13.666	12.533	12.266	38.465	12.821	5.7	5.5	5.1	16.3	6	5.43	7.966	7.033	7.166	22.165	5	7.388
8	ITA	12.900	12.300	12.133	37.333	12.444	5.6	5.3	5.3	16.2	7	5.40	7.300	7.000	6.833	21.133	8	7.044

表-8　団体決勝の平均台チーム得点および D・E スコア

種目順位	国名	種目スコア					Dスコア						Eスコア					
		選手A	選手B	選手C	合計	平均	選手A	選手B	選手C	合計	順位	平均	選手A	選手B	選手C	合計	順位	平均
1	ITA	13.733	13.133	12.900	39.766	13.255	5.6	5.2	5.6	16.4	5	5.46	8.133	7.933	7.300	23.366	1	7.788
2	CAN	13.833	13.566	12.233	39.632	13.210	5.9	5.6	4.9	16.4	5	5.46	7.933	7.966	7.333	23.232	2	7.744
3	USA	13.333	13.266	12.800	39.399	13.133	5.4	6.0	5.4	16.8	2	5.60	7.933	7.266	7.500	22.699	4	7.566
4	GBR	13.700	13.333	12.266	39.299	13.099	5.7	5.4	5.7	16.8	2	5.60	8.000	7.933	6.866	22.799	3	7.599
5	日本	13.233	13.000	12.766	38.999	12.999	5.8	5.6	5.3	16.7	4	5.56	7.433	7.400	7.466	22.299	5	7.433
6	CHN	14.266	12.400	10.700	37.366	12.455	6.5	5.5	5.3	17.3	1	5.76	7.766	7.000	5.400	20.166	8	6.722
7	BRA	12.833	12.533	11.966	37.332	12.444	5.8	5.4	4.6	15.8	8	5.26	7.033	7.133	7.366	21.532	6	7.177
8	FRA	13.666	11.633	11.200	36.499	12.166	5.6	5.5	4.7	15.8	7	5.26	8.066	6.233	6.500	20.799	7	6.933

日本チームは予選において E スコア１位であり、大過失やバランスを大きく崩す場面がなく安定した演技ができたことが E スコアへの評価とつながったことが伺える。決勝では D スコア合計４位、E スコア合計５位、チーム得点５位であった。

予選・決勝ともに D スコア合計が１位の中国においては、大過失などの実施減点があり E スコア合計では予選７位、決勝８位であり、実施の安定性がチーム得点に大きく影響することが伺える。

また、今大会の審判打合せでは、芸術性と構成の減点についての説明が強調され、各演技の当該減点について各 E 審判がチェックシートに記入することとなっていた。決勝進出した国でも、「身体を大きく使う」「身体の各部位が芸術的表現に十分関与していない」の２項目に関しては、意識して取り組んでいる選手または国と、取り組みが不十分な選手・国が明確であった。

日本チームについては特に「身体の各部位が芸術的表現に十分関与していない」の項目に関してまだ不十分な印象であり、今後国内の選手・コーチに向けて、本項目の意図の理解と取組みを促す必要があると強く実感した。

(5)　ゆかについて

予選および決勝におけるチーム得点・チーム D スコア・チーム E スコアの結果は、表のとおり。

予選において日本は D スコア合計５位、E スコア合計７位、チーム得点６位であった。E スコア１位のイギリスから８位中国までの差は小さく（平均の差は 0.278）、D スコアの差がチーム得点に大きく影響したことが伺える。

表-９　予選上位８カ国のゆかチーム得点および D・E スコア

種目順位	国名	種目スコア					Dスコア						Eスコア					
		選手A	選手B	選手C	合計	平均	選手A	選手B	選手C	合計	順位	平均	選手A	選手B	選手C	合計	順位	平均
1	USA	14.100	14.066	13.800	41.966	13.988	5.8	6.1	5.7	17.6	1	5.86	8.300	7.966	8.100	24.366	3	8.122
2	BRA	14.200	14.200	13.466	41.866	13.955	6.1	5.8	5.5	17.4	2	5.80	8.100	8.400	8.066	24.566	2	8.188
3	GBR	14.100	13.600	13.333	41.033	13.677	5.9	5.3	5.3	16.5	3	5.50	8.300	8.300	8.033	24.633	1	8.211
4	ITA	13.600	13.500	13.466	40.566	13.522	5.4	5.7	5.4	16.5	3	5.50	8.200	8.100	8.066	24.366	3	8.122
5	CAN	13.300	13.266	13.266	39.832	13.277	5.3	5.0	5.3	15.6	8	5.20	8.000	8.266	7.966	24.232	5	8.077
6	日本	13.600	13.100	13.066	39.766	13.255	5.5	5.3	5.2	16.0	5	5.33	8.100	7.800	7.966	23.866	7	7.955
7	FRA	13.300	13.266	13.166	39.732	13.244	5.2	5.2	5.3	15.7	6	5.23	8.100	8.166	7.866	24.132	6	8.044
8	CHN	13.400	13.066	12.733	39.199	13.066	5.4	5.3	5.0	15.7	6	5.23	8.000	8.066	7.733	23.799	8	7.933

表-10　　団体決勝のゆかチーム得点および D・E スコア

種目順位	国名	種目スコア					Dスコア						Eスコア					
		選手A	選手B	選手C	合計	平均	選手A	選手B	選手C	合計	順位	平均	選手A	選手B	選手C	合計	順位	平均
1	USA	14.100	14.000	13.733	41.833	13.944	6.1	5.8	5.7	17.6	1	5.86	8.000	8.200	8.033	24.233	2	8.077
2	GBR	14.266	13.433	13.133	40.832	13.610	5.9	5.2	5.3	16.4	2	5.46	8.366	8.233	7.833	24.432	1	8.144
3	日本	13.700	13.200	13.033	39.933	13.311	5.7	5.2	5.3	16.2	4	5.40	8.000	8.000	7.733	23.733	4	7.911
4	BRA	14.066	12.833	12.466	39.365	13.121	5.9	5.3	5.1	16.3	3	5.43	8.166	7.533	7.366	23.065	6	7.688
5	CAN	13.100	13.100	12.933	39.133	13.044	5.0	5.3	5.1	15.4	6	5.13	8.200	7.800	7.833	23.833	3	7.944
6	ITA	13.966	13.133	11.600	38.699	12.899	5.7	5.2	4.8	15.7	5	5.23	8.266	7.933	6.800	22.999	7	7.666
7	FRA	13.366	13.133	12.000	38.499	12.833	5.1	5.1	5.1	15.3	8	5.10	8.266	8.033	6.900	23.199	5	7.733
8	CHN	12.966	12.866	12.166	37.998	12.666	5.0	5.4	5.0	15.4	6	5.13	7.966	7.466	7.166	22.598	8	7.532

決勝では日本は D スコア合計４位、E スコア合計４位、チーム得点３位の成績であった。予選と同様に、高い D スコアを有している国が上位に位置しており、D スコアの差がチーム得点に大きく影響した結果となった。今後も日本は減点の少ない正確な技の実施で 8.000 以上の E スコアを維持しつつ、D スコア 5.5 以上を目指して E 難度以上のアクロバット系の技、組み合わせ点を獲得できる組み合わせに積極的に取り組んでいくことが重要である。

また、今大会は上位チームの E スコアに大きな差は見られなかったものの、芸術性については平均台と同様に日本はまだ不十分な印象であり、特に審判会議において強調されていた「大きさ不十分（身体を最大限に使った動き）」「身体の各部位が芸術的表現に十分関与していない」「美しさに欠ける足の動き」「表現力の欠如」の項目については日本全体で取り組んでいく必要がある。

２　個人総合決勝について

表-11　個人総合決勝上位８名と日本選手の総合得点および D・E スコア

種目順位	選手	国	得点					Dスコア合計						Eスコア合計					
			VT	UB	BB	FX	合計	VT	UB	BB	FX	合計	順位	VT	UB	BB	FX	合計	順位
1	ANDRADE	BRA	15.166	13.800	13.533	14.400	56.899	5.6	6.2	6.0	6.1	23.9	1	9.566	7.600	7.533	8.300	32.999	3
2	JONES	USA	14.233	14.366	13.100	13.700	55.399	5.0	6.3	5.2	5.5	22.0	5	9.333	8.066	7.900	8.200	33.499	1
3	GADIROVA	GBR	13.833	13.233	13.733	14.400	55.199	5.0	5.6	5.7	6.0	22.3	3	8.933	7.633	8.033	8.400	32.999	4
4	KINSELLA	GBR	14.166	14.166	13.100	13.633	55.065	5.0	6.0	5.8	5.6	22.4	2	9.166	8.166	7.400	8.033	32.765	5
5	BLACK	CAN	14.033	13.933	13.433	13.333	54.732	5.0	5.7	5.8	5.0	21.5	8	9.033	8.233	7.633	8.333	33.232	2
6	CAREY	USA	14.733	13.166	12.633	14.166	54.698	5.6	5.4	5.2	6.1	22.3	4	9.133	7.766	7.433	8.066	32.398	6
7	OU	CHN	13.100	13.200	13.866	13.733	53.899	4.2	5.8	6.2	5.6	21.8	7	8.900	7.400	7.666	8.133	32.099	7
8	宮田　笙子	日本	14.233	12.866	12.966	13.733	53.798	5.0	5.5	5.7	5.7	21.9	6	9.233	7.366	7.266	8.033	31.898	8
14	山田　千遥	日本	13.166	13.466	12.233	13.100	51.965	4.2	5.7	5.3	5.3	20.5		8.966	7.766	6.933	7.800	31.465	

決勝に進んだ宮田選手は８位入賞、山田選手は 14 位であった。

宮田選手は４種目とも大過失等の大きなミスなく演技したが、段違い平行棒と平均台では実施減点が目立ち、予選より E スコアを伸ばすことができなかった。山田選手は平均台で予定していた D スコアを獲得することはできたものの、着地の姿勢の欠点や数か所バランスを崩す場面があり、E スコアが伸びなかった。

今後個人総合で上位を狙うためには、D スコア合計 22.0 点以上は必要であり、なおかつ E スコアでは段違い平行棒・平均台・ゆかでそれぞれ 8.000 以上を獲得できる安定した実施が求められる。

3　種目別決勝について

⑴　跳馬

表-12　種目別決勝跳馬の得点および D・E スコア

順位	選手	国	1本目				最終スコア
			Dスコア	Eスコア	ND	合計	
1	CAREY	USA	5.6	9.133		14.733	14.516
			5.0	9.300		14.300	
2	CHILES	USA	5.0	9.500		14.500	14.350
			4.8	9.400		14.200	
3	DEVILLARD	FRA	5.4	9.100		14.500	14.166
			5.0	8.933	0.1	13.833	
4	BLACK	CAN	5.0	9.200		14.200	14.116
			4.8	9.233		14.033	
5	宮田　笙子	日本	5.0	9.066		14.066	13.999
			4.8	9.133		13.933	
6	VAELEN	BEL	5.4	8.866		14.266	13.733
			4.4	8.800		13.200	
7	YEO	KOR	5.4	7.566	0.3	12.666	13.349
			5.0	9.033		14.033	
8	RAZ	ISR	5.0	7.433	0.3	12.133	12.599
			4.4	8.666		13.066	

決勝に進出した宮田選手は２本とも着地まで安定した跳躍を見せ５位の成績であった。

優勝した CAREY 選手（USA）は 5.6 および 5.0 の高い D スコアを有していた。また２位の CHILES 選手（USA）は、２本とも非常に高さのあるダイナミックな跳躍であり、9.500 および 9.400 の高い E スコアを獲得した。

日本として今後、種目別決勝進出およびメダルを狙うには、２本とも D スコア 5.0 以上の跳躍技かつダイナミックで余裕をもって高い着地姿勢までまとめる実施が必要となる。

⑵　段違い平行棒

表-13　種目別決勝段違い平行棒の得点および D・E スコア

順位	選手	国	Dスコア	Eスコア	ND	最終スコア
1	WEI	CHN	6.6	8.366		14.966
2	JONES	USA	6.4	8.366		14.766
3	DERWAEL	BEL	6.3	8.400		14.700
4	SEITZ	GER	6.1	8.266		14.366
5	VEERMAN	NED	6.2	7.966		14.166
6	LUO	CHN	6.1	7.700		13.800
7	VISSER	NED	6.1	7.133		13.233
8	ANDRADE	BRA	5.7	7.100		12.800

上位３名は D スコア・E スコアともに高いスコアを獲得した。D スコアについて、優勝した WEI 選手（CHN）は E 難度の技を６つ組み込んだ構成で８名中最も高い 3.8 の難度点を有していた。また、２位の JONES 選手（USA）および３位の DERWAEL 選手（BEL）は空中局面を伴う技を複数組み合わせ、0.6～0.7 の組み合わせ点を獲得した。E スコアについては、8.000 以上獲得した４名はけ上がり、振り上げ倒立などの基本技に減点がないことはもちろん、空中

局面を伴う技の高さ、ひねりを伴う技の完了角度などに欠点が少ない。さらにD難度以上の技を連続して実施することで演技全体の技数が少なくなり、減点のチャンス自体が少ないことが高得点につながっていると考えられる。

日本が上位に食い込むためには、まずはけ上がり、振り上げ倒立、車輪、支持回転系の技（浮支持回転倒立、足裏支持回転倒立、シュタルダーなど）などの基本技の欠点をなくし、8.000以上のEスコアを獲得できるよう１つ１つの技の質を高めていくことが求められる。

⑶　平均台

表-14　種目別決勝平均台の得点およびD・E スコア

順位	選手	国	Dスコア	Eスコア	ND	最終スコア
1	渡部　葉月	日本	5.5	8.100		13.600
2	BLACK	CAN	5.5	8.066		13.566
3	宮田　笙子	日本	5.8	7.733		13.533
4	BOYER	FRA	5.5	7.800		13.300
5	BLAKELY	USA	6.2	7.100		13.300
6	OU	CHN	5.9	7.100		13.000
7	KOVACS	HUN	5.1	7.633		12.733
8	ANDRADE	BRA	6.0	6.733		12.733

今回、渡部選手・宮田選手の２名が決勝へ進出することができた。
渡部選手はアクロバット系・ダンス系ともに実施減点が非常に少なく、安定した実施で優勝し、宮田選手もバランスを崩す場面が少なく３位となり、２つのメダルを獲得したことは日本にとって大変大きな成果である。しかし日本全体として、芸術性の「身体の各部位が芸術的表現に十分関与していない」「リズムとテンポの変化」などの項目においては、改善の余地があり、芸術性に富んだ質の良い演技を目指していくことが求められる。

Dスコア6.0以上のBLAKERY選手（USA）およびANDRADE選手（BRA）は、D・E難度以上の複数のアクロバット系とダンス系が組み込まれた高い難度点（DV3.3～3.4）、複数の組み合わせ点（両選手とも0.6）により高いDスコアを有していたが、落下などの過失があり、それぞれ５位・８位に終わった。種目の特性上、大きな過失なく、いかに安定した演技ができるかが順位に大きく影響することが伺える結果であった。

⑷　ゆか

表-15　種目別決勝ゆかの得点およびD・E スコア

順位	選手	国	Dスコア	Eスコア	ND	最終スコア
1	GADIROVA Jessica	GBR	6.0	8.200		14.200
2	CHILES	USA	5.8	8.033		13.833
3	ANDRADE	BRA	5.9	7.833		13.733
3	CAREY	USA	5.9	7.833		13.733
5	VISSER	NED	5.7	7.966		13.666
6	MAGGIO	ITA	5.6	7.933		13.533
7	GADIROVA Jennifer	GBR	5.3	7.966	0.1	13.166
8	宮田　笙子	日本	5.3	7.766		13.066

競技開始直前にリザーブから繰り上がりで出場することとなった宮田選手は、予選より難度を下げて演技した。実施では着地で乱れる箇所があり、Eスコアを伸ばすことができず、８位の成績であった。

種目別決勝においても出場選手のEスコアの差は小さく、Dスコアの差が順位に大きく影響する結果となった。アクロライン最大４本までという制限がある中でいかに高い難度のアクロバット系の技を組み込めるか、また多くの組み合わせ点を獲得できるかが高いDスコアを獲得するためのポイントとなる。また、着地の乱れはEスコアに大きく影響することから、高い姿

勢での安定した着地を目指していくことが求められる。

Ⅸ　全体所感

今大会の日本チームは、世界選手権やオリンピックの代表経験のない選手による若手のチームであったが、各選手が最大限の力を発揮し、予選５位・決勝７位の成績で終え、世界における現段階でのおおよそのポジションを図ることができた。

また個人総合では宮田選手８位入賞、種目別では跳馬で宮田選手が５位、平均台では渡部選手が優勝、宮田選手３位、ゆかでは宮田選手８位と数々の入賞を果たし、個人の競技力が十分世界で戦えるものであることが明らかとなった。

パリオリンピック団体出場権がかかる来年の世界選手権、その先のパリオリンピック入賞に向けて、４種目とも一定の D スコアを確保しつつ、いかに欠点の少ない安定した演技で E スコアを獲得できるかが大変重要となる。特に依然として上位国との差がある段違い平行棒については、振幅の大きさや空中局面を伴う技の高さなど、各技の質を高めていかなければその差は埋まらないのではないかと感じた。

また今大会の審判打合せで特に強調されていた芸術性の、「大きさ不十分（身体を最大限に使った動き）」「身体の各部位が芸術的表現に十分関与していない」「美しさに欠ける足の動き」については、他国の選手に比べると日本選手はまだ不十分な印象であった。今後は日本全体として、高い D スコアと減点の少ない実施を求めるだけでなく、女子体操競技の特性である芸術性をともなった競技力の向上を促していくことが急務であると実感した。

以上